

京都府外国人住民に向けた防災についての アンケート調査報告書

平成25年10月

 公益財団法人 京都府国際センター

はじめに

京都府国際センターでは、多文化共生社会の実現をめざし、外国人住民との共生に重点を置いて事業展開しています。なかでも、災害時に外国人住民が孤立し弱者とならないよう、行政機関や地域の国際化協会と連携した支援の取組を進めており、日本語学習を通じた防災意識の向上、災害時サポーターの募集や研修、防災訓練等を実施しているところです。また、平成21年度に「外国人のための防災ガイドブック」を多言語で作成し、改訂を重ねながら、大学等教育機関や日本語教室で活用いただいております。

この間、東日本大震災が発生し災害のすさまじさと恐ろしさを改めて思い知らされました。災害に対する危機意識は、外国人住民のなかでも高まっている一方、私どもが取り組む防災・災害時支援事業について、現実には即したより実効性ある対応と準備が求められるところです。

外国人住民には、長期にわたって日本に住んでいる方から短期留学生まで多様な方がいて、さらに在住目的、年齢、国籍・地域、家族構成、日本語能力など実に様々な姿、形で生活をしています。従って、今後、より実効性ある対応を行うためには、外国人住民の災害に対する意識や知識、備えがどのようなものであるか、より詳細に把握・分析し、取組事業に反映させることが重要だと考えられます。

そのため、京都府国際センターでは、「やさしい日本語」有志の会と共同して、京都府内の外国人住民の防災意識について調査を実施しました。

「やさしい日本語」有志の会は、「外国人のための防災ガイドブック」の「やさしい日本語」版作成に御協力いただき、「防災教育チャレンジプラン」（内閣府）では助成事業として高い評価を得るなど、外国人住民の防災に係る教育・啓発に積極的に取り組まれております。今回、同会と共同することにより、日本語教室等の御協力を得て身近で詳細に外国人住民の声を把握することができ、データ分析に当たっても貴重な御意見をいただきました。同会の多大な御理解と御苦勞に心からお礼を申し上げます。

今回の調査結果を踏まえ、行政機関、関係団体と連携を深め、防災・災害時支援の取組を進めてまいりますと存じます。

最後に、日本語教室でのアンケート実施に御協力いただいた京都にほんご Rings 会員の皆様、データ分析に御尽力いただいた京都大学防災研究所の矢守克也教授をはじめ調査に御協力いただいた皆様方に厚くお礼申し上げます。

公益財団法人 京都府国際センター

『外国人住民に向けた防災についてのアンケート調査報告書』は、当センターのホームページにも掲載しております。 <http://www.kpic.or.jp/>

目次

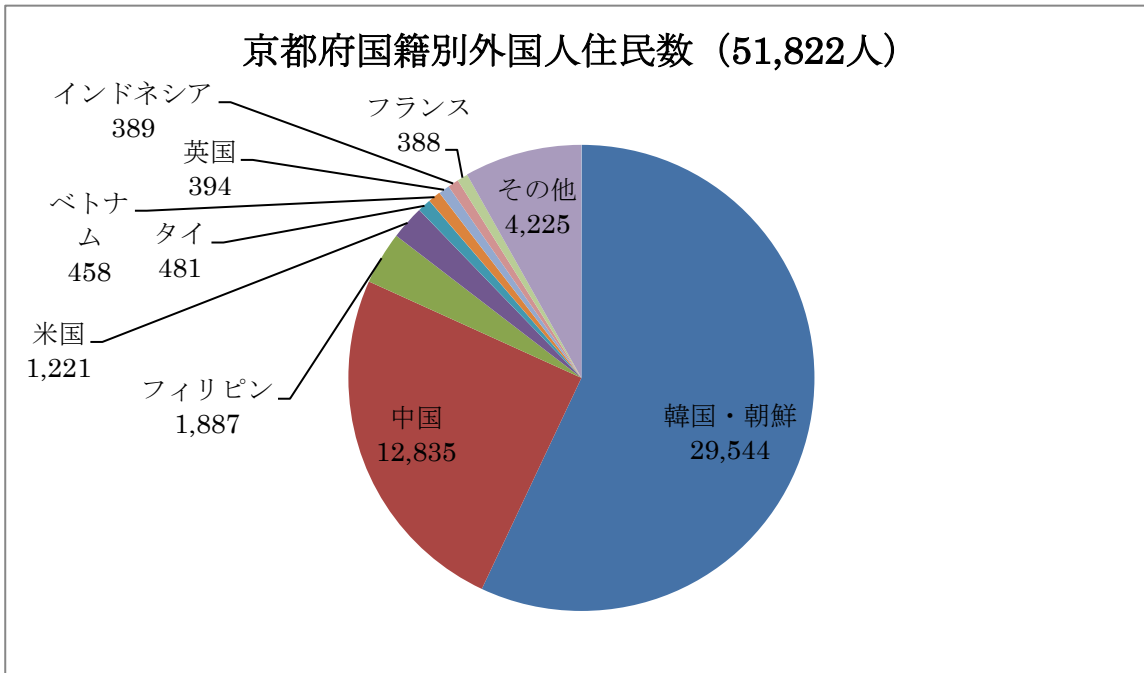
I. 京都府在住の外国人	1
1. 国籍別外国人住民数	1
2. 市町村別外国人住民数	1
3. 外国人住民数と永住者の推移	2
II. 調査概要	3
1. 調査の目的	3
2. 調査の実施主体等	3
3. 調査の対象者	3
4. 調査項目	3
5. 調査方法	3
6. 調査実施期間	3
7. 回収結果	3
III. 調査結果	4
1. 回答者の属性	4
2. 災害への意識について	9
3. 日常での情報入手方法について	23
4. 地域とのかかわりについて	26
参考：回答者の使用言語について	29
IV. 分析結果～京都府外国人住民の防災意識に関する一考察～	34
1. 外国人住民も地震と津波に大きな不安	35
2. 災害発生時の不安、内容に日本人との違い	35
3. 災害の備えをしていない人の属性	37
4. 具体的な防災対策と防災知識	38
5. 大きな地震が起こっても、何の対策も思いつかない	39
6. 避難所以外の避難場所	41
7. 「日本語で十分なコミュニケーションが取れない人」への情報提供	43
8. 防災訓練や防災講習会の効果	44
9. 防災訓練、防災講習会の参加率を上げるために	46

※報告書の見方

- 1 各設問の回答者数は「(N=)」で示している。
- 2 回答比率はその設問の回答者数を基数としている。
- 3 回答比率は小数点第2位を四捨五入して算出したため、その合計が100%に一致しない場合がある。
- 4 自由記述の設問では原文の趣旨を損なわない範囲で書き換えまたは要約している。

I. 京都府在住の外国人

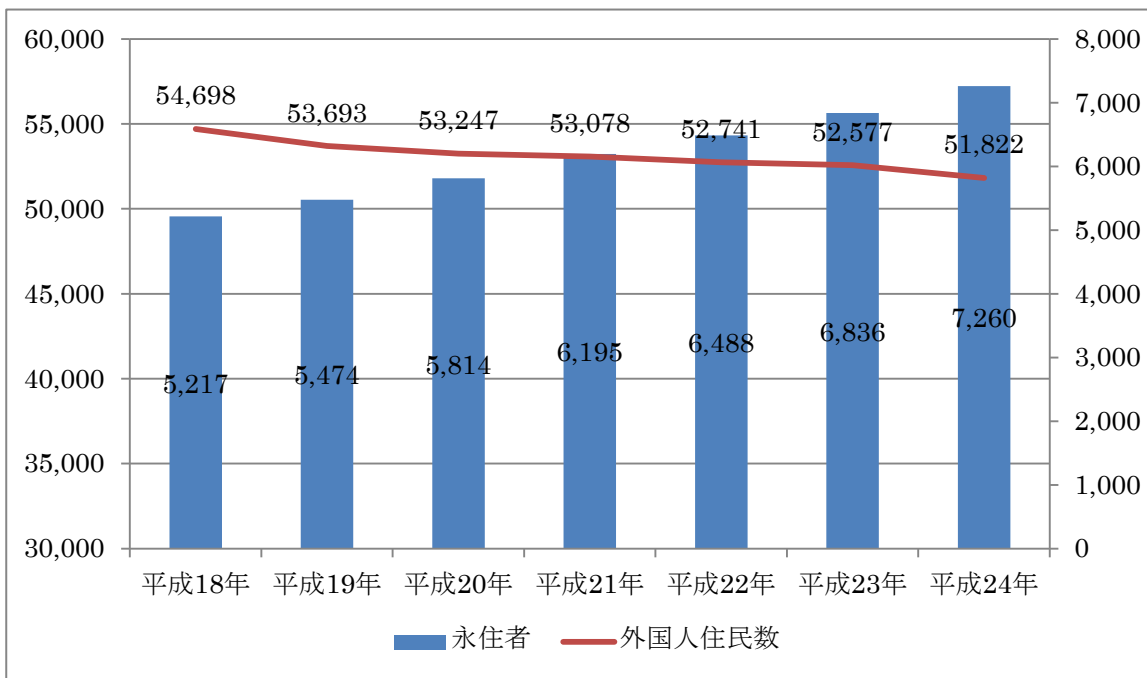
1. 国籍別外国人住民数（平成24年 京都府国際課）



2. 市町村別外国人住民数（平成24年 京都府国際課）

市町村名	人数	市町村名	人数
京都市	40,676	木津川市	469
福知山市	862	大山崎町	95
舞鶴市	1,044	久御山町	343
綾部市	364	井手町	57
宇治市	2,695	宇治田原町	86
宮津市	148	笠置町	2
亀岡市	897	和束町	13
城陽市	588	精華町	199
向日市	438	南山城村	17
長岡京市	559	京丹波町	141
八幡市	765	伊根町	7
京田辺市	604	与謝野町	132
京丹後市	372	合計	51,822
南丹市	249		

3. 外国人住民数と永住者の推移



II. 調査概要

1. 調査の目的

災害弱者とされる外国人住民に対して防災意識や情報入手方法などについてのアンケート調査を実施することにより、今後の適切な災害時支援体制整備につなげることを目的とする。

2. 調査の実施主体等

公益財団法人京都府国際センター

共同実施：「やさしい日本語」有志の会

協力：京都大学防災研究所巨大災害研究センター矢守研究室、京都にほんご Rings

3. 調査の対象者

20歳以上の府内在住外国人 966名（市町村国際化協会、日本語教室、日本語学校、教会などの協力を得て抽出）

4. 調査項目

①災害への意識について（災害への不安、防災対策、防災訓練、避難所、災害用伝言板）

②日常での情報入手方法について（情報源、使用メディア、インターネット利用）

③地域とのかかわりについて（地域の日本人との交流、地域の活動）

④使っている言葉について（日本語能力、日本語学習状況、使用言語）

⑤回答者の属性（性別、年齢、国籍・地域、居住地、在留資格、滞在期間・予定、日本人家族）

5. 調査方法

質問紙調査

※質問紙は日本語版のほか、英語版、韓国・朝鮮語版、中国語版、フィリピン語版、タイ語版、ベトナム語版、インドネシア語版、フランス語版、スペイン語版、ポルトガル語版を作成

6. 調査実施期間

平成24年11月～平成25年1月

7. 回収結果

有効回答数 506件（回答率52.4%）

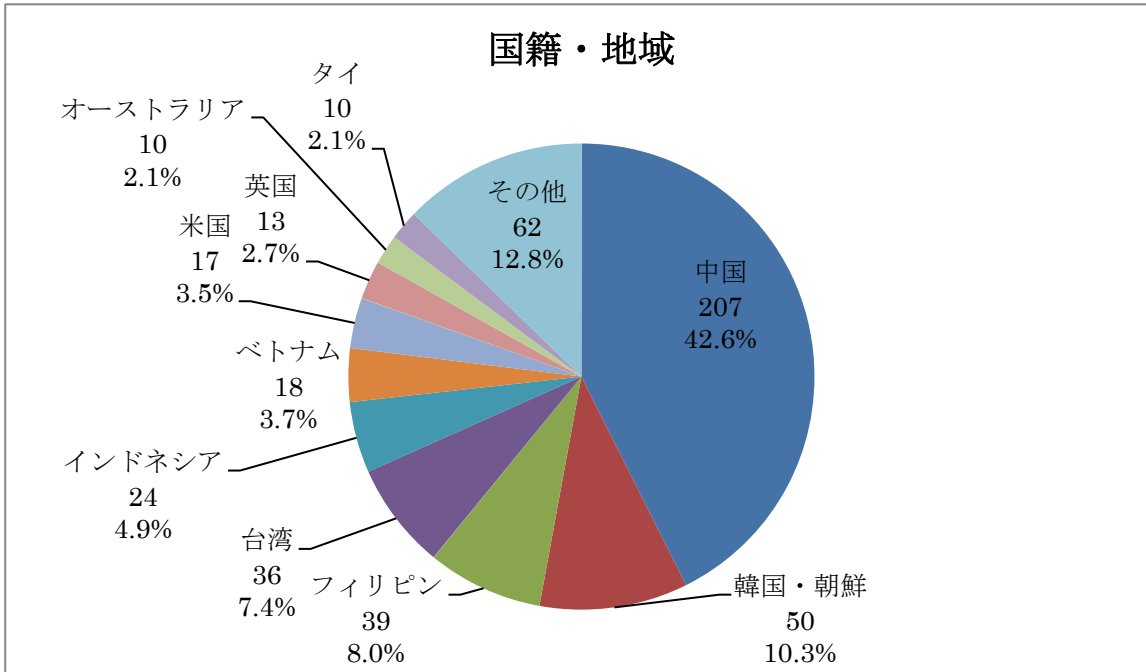
※有効回答数は質問ごとに異なる。

Ⅲ. 調査結果

1. 回答者の属性

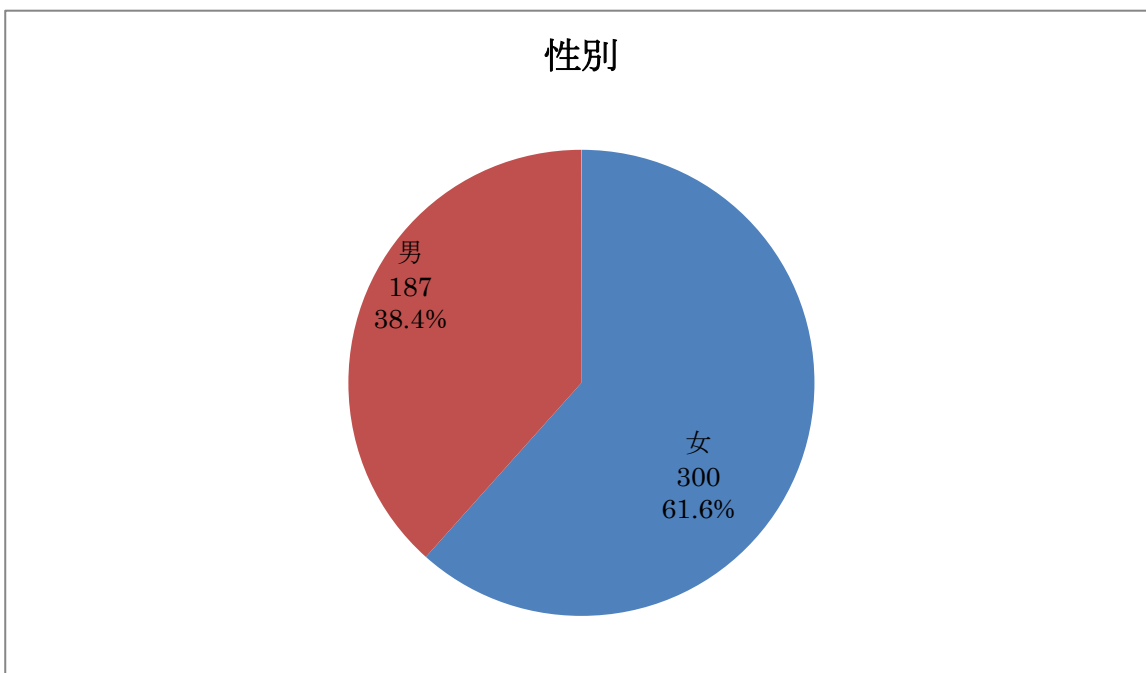
①国籍・出身地域 (N=486)

・回答者の国籍・出身地域は「中国」が最も多く 42.6% (207 人)、以下、「韓国・朝鮮」10.3% (50 人)、「フィリピン」8.0% (39 人)、「台湾」7.4% (36 人) となっている。



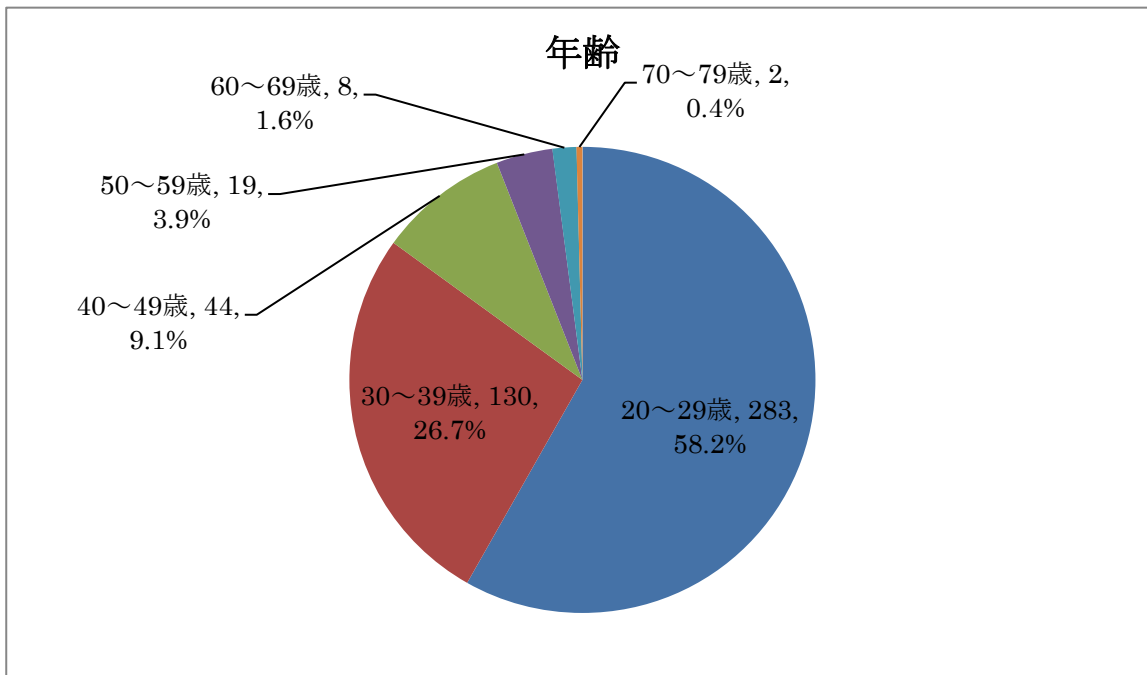
②性別 (N=487)

・回答者の性別は「女性」が 61.6% (300 人)、「男性」が 38.4% (187 人) となっている。



③年齢 (N=486)

・回答者の年齢は「20～29歳」が58.2% (283人)、以下、「30～39歳」が26.7% (130人)、「40～49歳」が9.1% (44人) となっている。

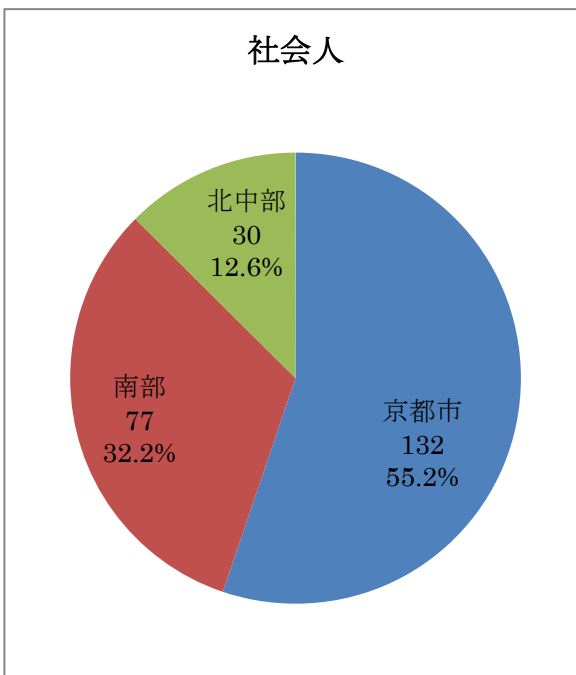
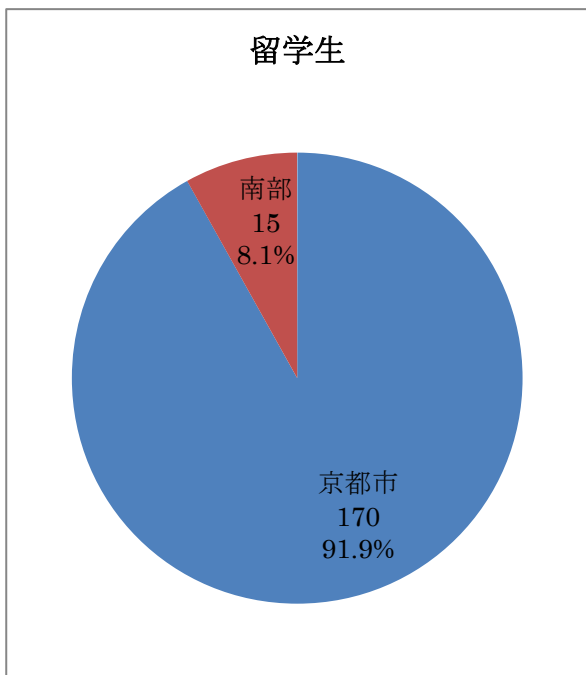
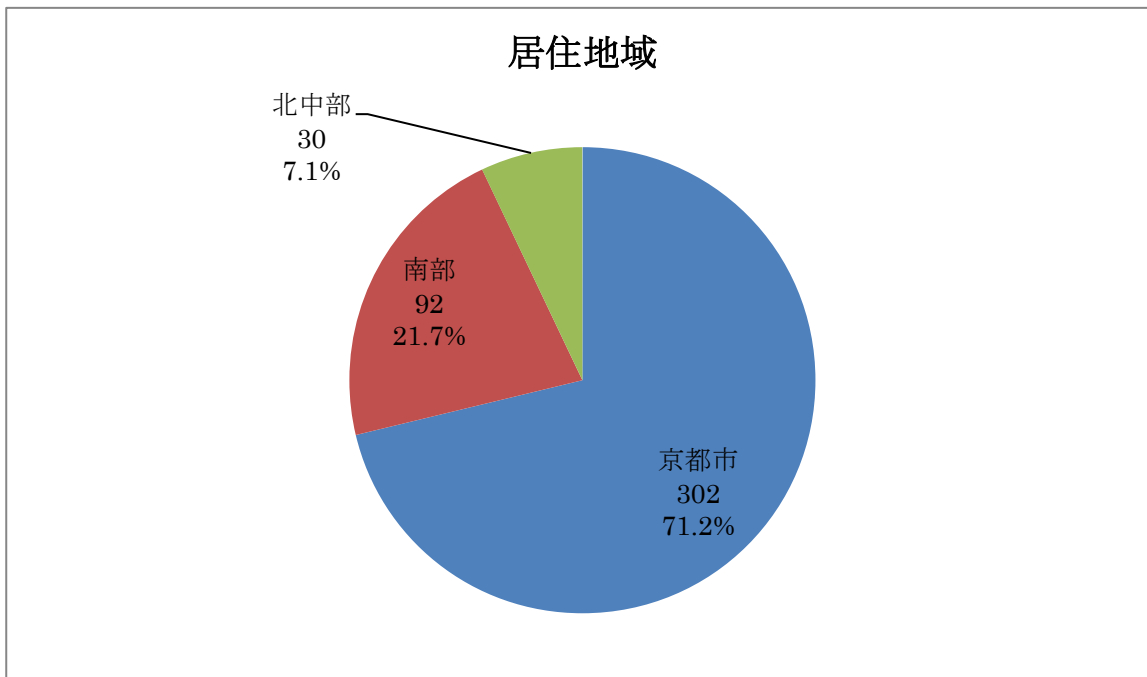


④居住地 (N=424)

・回答者の居住地は「京都市」が71.2% (302人)、「南部」が21.7% (92人)、「北中部」が7.1% (30人) となっている。留学生に限れば「京都市」が9割を超える。

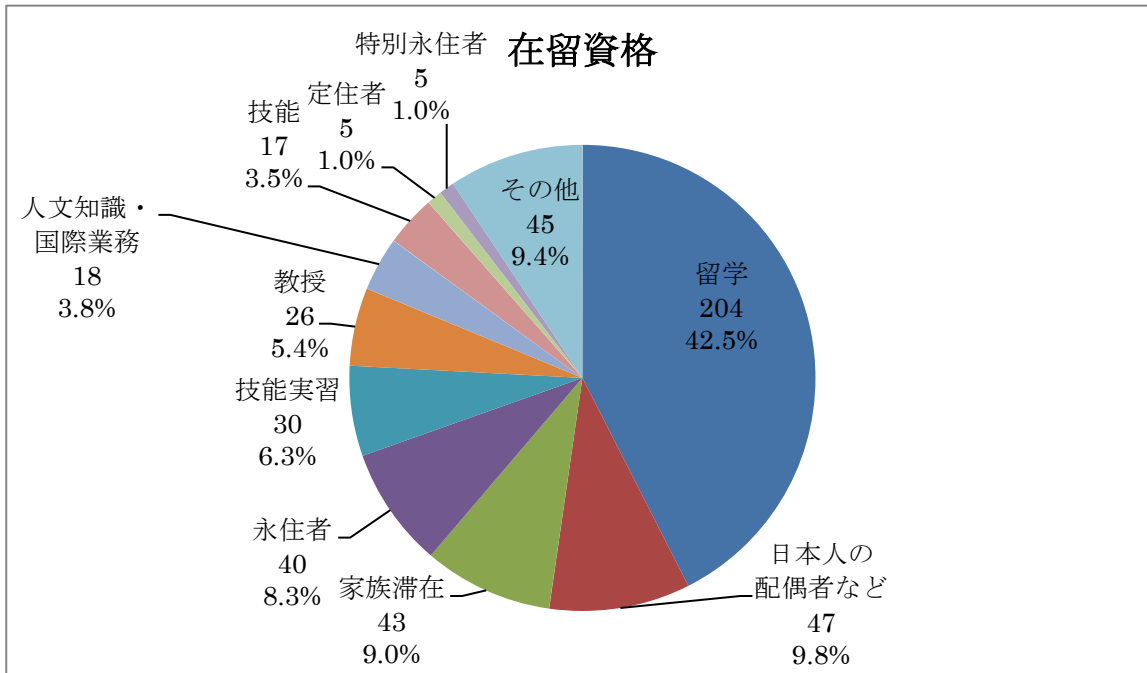
※地域区分

北中部：京丹後市、伊根町、宮津市、与謝野町、舞鶴市、福知山市、綾部市、南丹市、京丹波町、亀岡市
南 部：宇治市、城陽市、久御山町、向日市、長岡京市、大山崎町、八幡市、京田辺市、木津川市、
精華町、井手町、宇治田原市、笠置町、和束町、南山城村



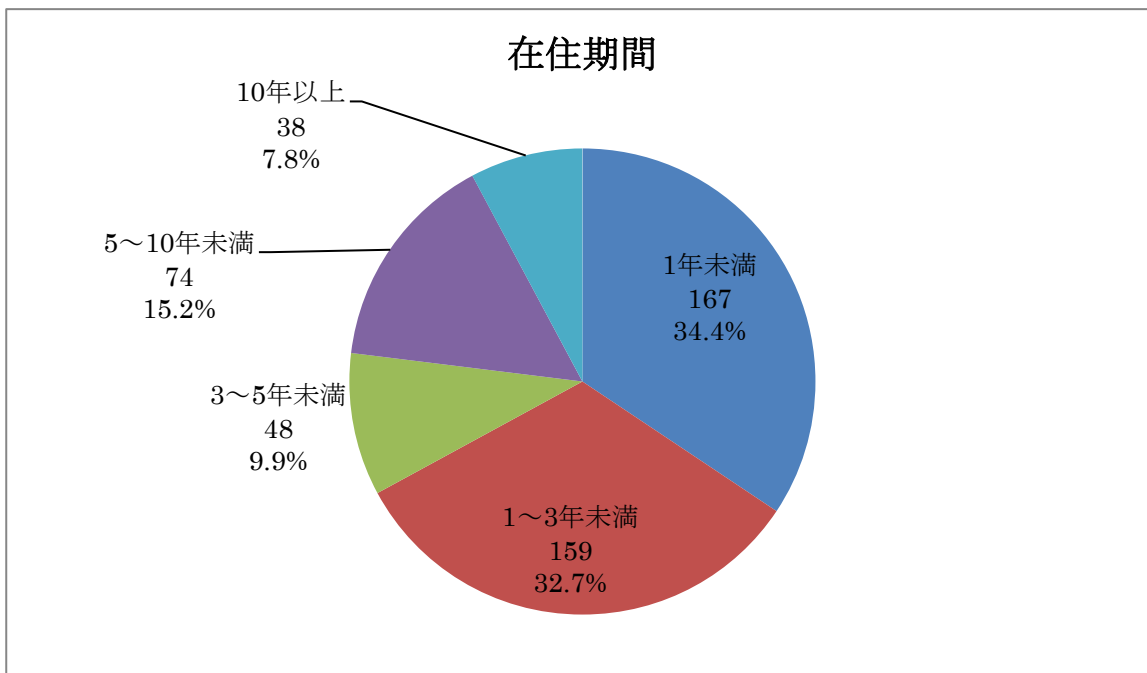
⑤在留資格 (N=480)

・回答者の在留資格は「留学」が 42.5% (204 人) で最も多く、以下、「日本人の配偶者」9.8% (47 人)、「家族滞在」9.0% (43 人)、「永住者」8.3% (40 人) となっている。



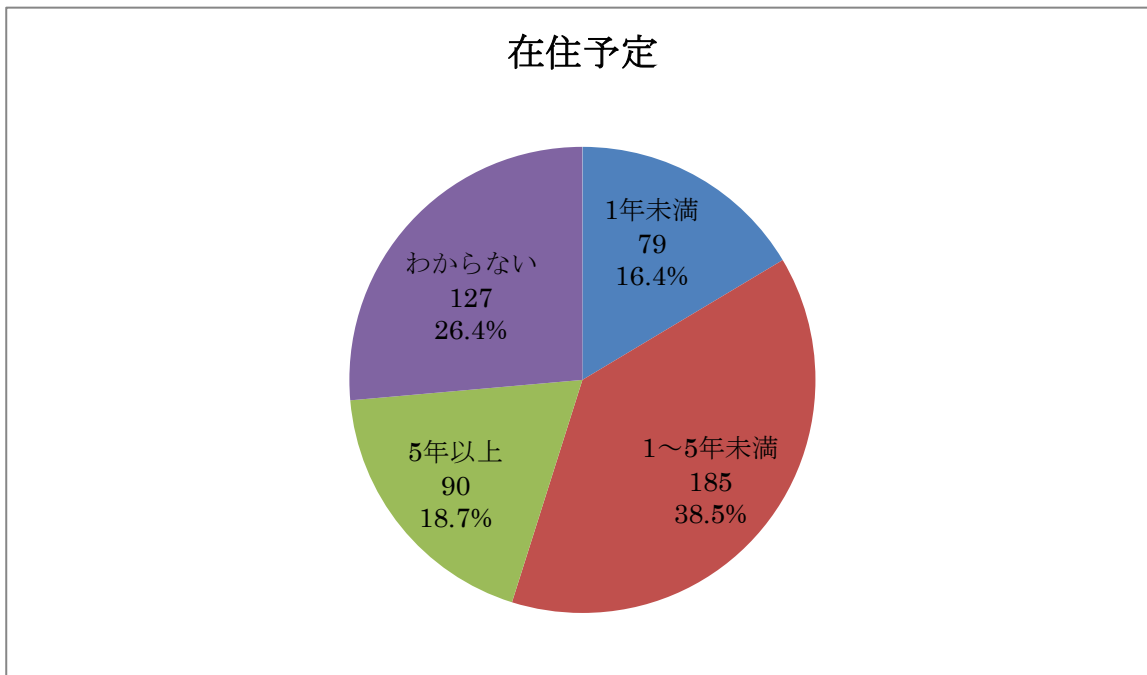
⑥在住期間 (N=486)

・回答者の日本での在住期間は、「1年未満」が 34.4% (167 人) で最も多く、以下、「1年から3年未満」が 32.7% (159 人)、「5年から10年未満」が 15.2% (74 人)、「3年から5年未満」が 9.9% (48 人)、「10年以上」が 7.8% (38 人) となっている。



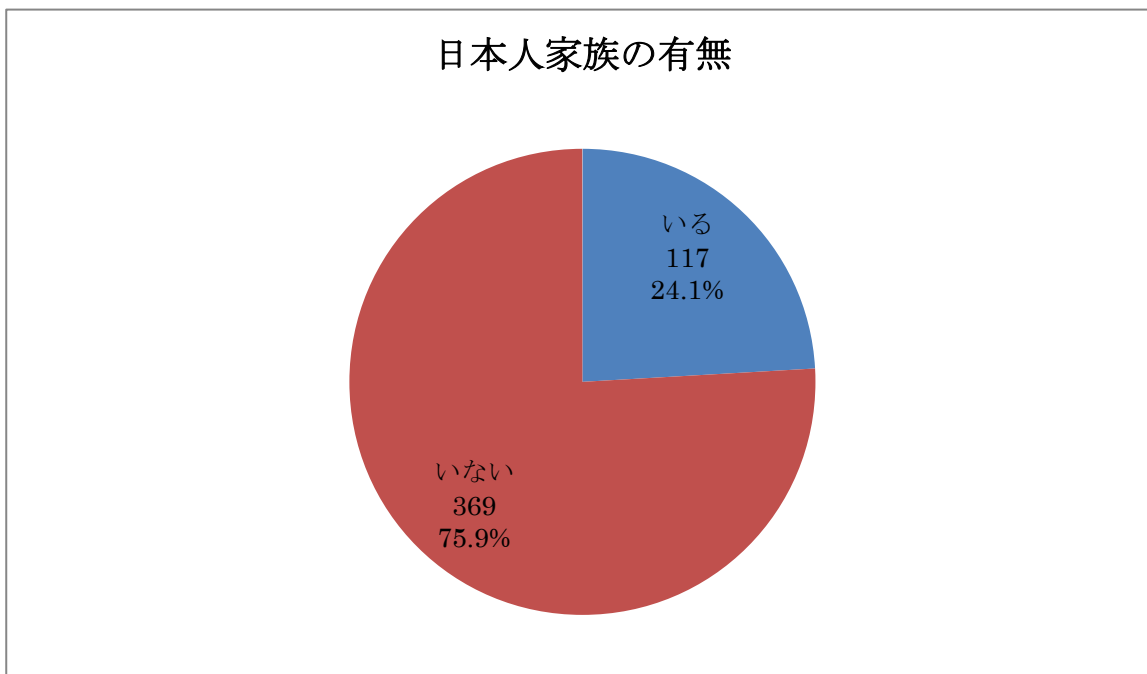
⑦在住予定 (N=481)

・今後の在住予定は「1年から5年未満」が38.5% (185人) で最も多く、以下、「わからない」が26.4% (127人)、「5年以上」が18.7% (90人)、1年未満が16.4% (79人) となっている。



⑧日本人家族の有無 (N=486)

・日本人の家族が「いる」と回答したのは24.1% (117人) で、「いない」と回答したのは75.9% (369人) となっている。

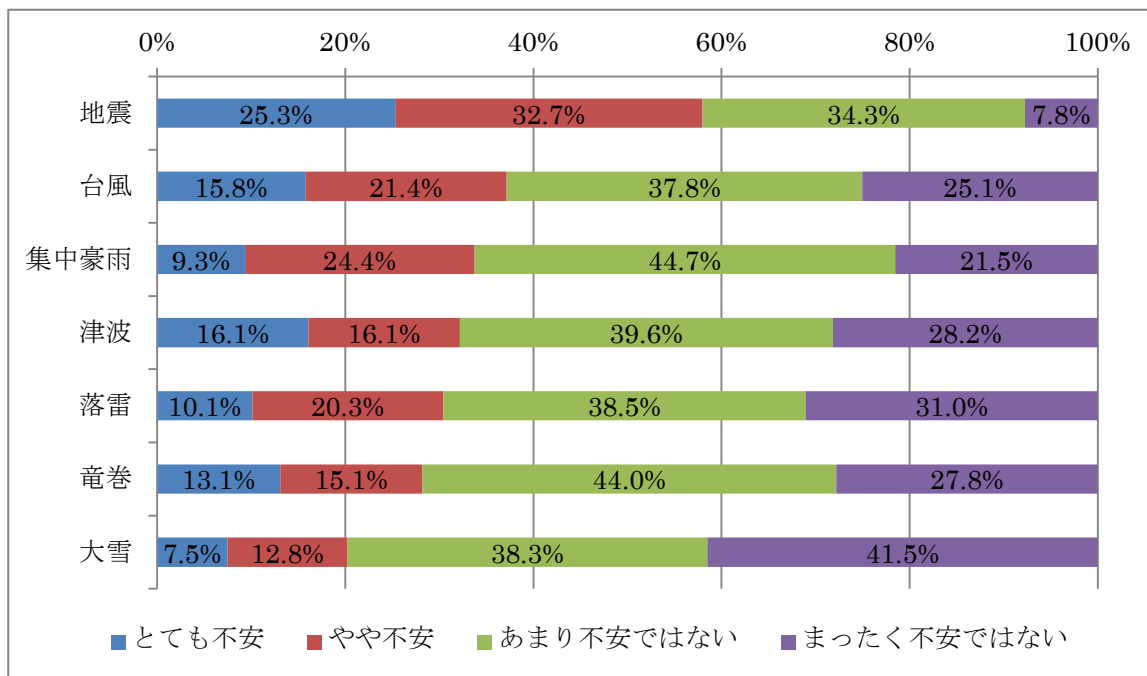


2. 災害への意識について

Q1-1

「あなたご自身が住んでいる地域で、下記の災害に対してどのくらい不安を感じていますか。」

「とても不安」、「やや不安」と不安を感じているのは「地震」が58%（291人）で最も多く、以下、「台風」が37.2%（184人）、「集中豪雨」が33.7%（166人）、「津波」が32.2%（160人）となっている。

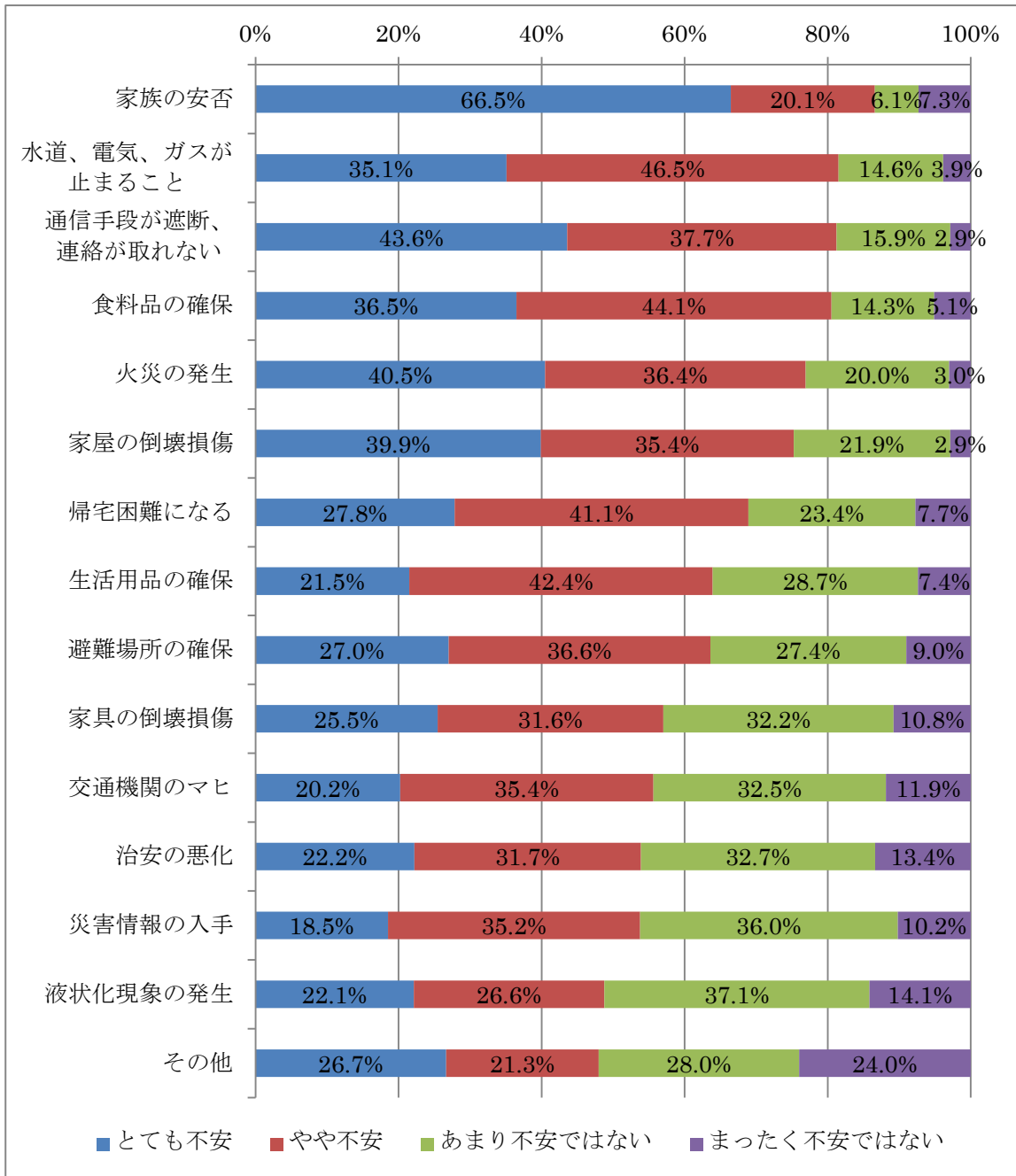


	とても不安	やや不安	あまり不安ではない	まったく不安ではない
地震 N=502	127 25.3%	164 32.7%	172 34.3%	39 7.8%
台風 N=495	78 15.8%	106 21.4%	187 37.8%	124 25.1%
集中豪雨 N=492	46 9.3%	120 24.4%	220 44.7%	106 21.5%
津波 N=497	80 16.1%	80 16.1%	197 39.6%	140 28.2%
落雷 N=493	50 10.1%	100 20.3%	190 38.5%	153 31.0%
竜巻 N=489	64 13.1%	74 15.1%	215 44.0%	136 27.8%
大雪 N=494	37 7.5%	63 12.8%	189 38.3%	205 41.5%

Q1-2

「災害が発生した時に心配なことは何ですか。」

「とても不安」、「やや不安」と不安を感じているのは「家族の安否」が 86.6% (426 人) で最も多く、以下、「水道、電気、ガスが止まること」が 81.5% (402 人)、「通信手段が遮断、連絡が取れない」が 81.3% (399 人)、「食料品の確保」が 80.5% (393 人)、「火災の発生」が 76.9% (380 人) となっている。



	とても不安	やや不安	あまり不安ではない	まったく不安ではない
家族の安否 N=492	327 66.5%	99 20.1%	30 6.1%	36 7.3%

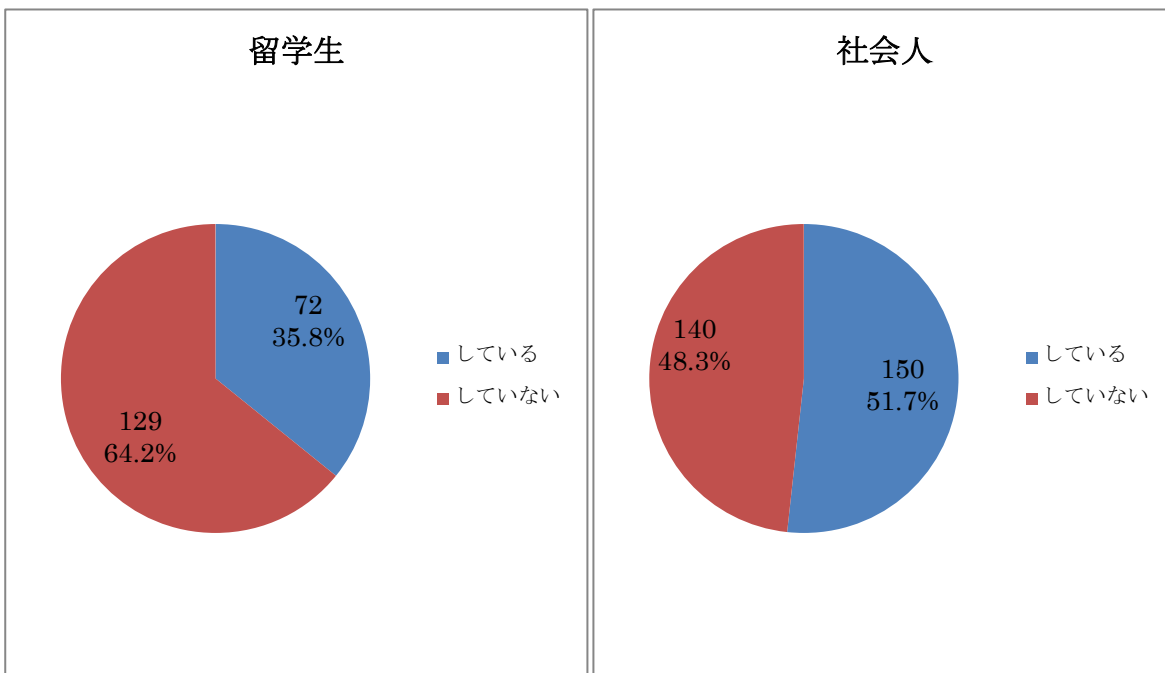
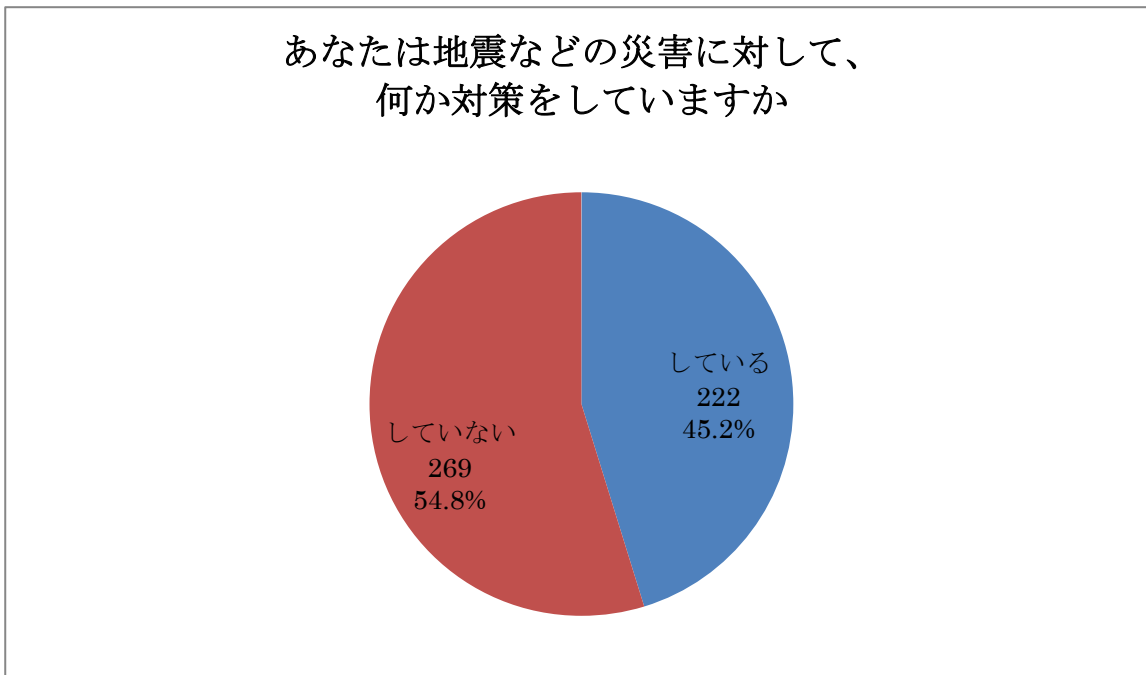
水道、電気、ガス が止まること N=493	173 35.1%	229 46.5%	72 14.6%	19 3.9%
通信手段が遮断、 連絡が取れない N=491	214 43.6%	185 37.7%	78 15.9%	14 2.9%
食料品の確保 N=488	178 36.5%	215 44.1%	70 14.3%	25 5.1%
火災の発生 N=494	200 40.5%	180 36.4%	99 20%	15 3%
家屋の倒壊損傷 N=489	195 39.9%	173 35.4%	107 21.9%	14 2.9%
帰宅困難になる N=492	137 27.8%	202 41.1%	115 23.4%	38 7.7%
生活用品の確保 N=488	105 21.5%	207 41.4%	140 28.7%	36 7.4%
避難場所の確保 N=489	132 27%	179 36.6%	134 27.4%	44 9.0%
家具の倒壊損傷 N=491	125 25.5%	155 31.6%	158 32.2%	53 10.8%
交通機関のマヒ N=489	99 20.2%	173 35.4%	159 32.5%	58 11.9%
治安の悪化 N=486	108 22.2%	154 31.7%	159 32.7%	65 13.4%
災害情報の入手 N=491	91 18.5%	173 35.2%	177 36%	50 10.2%
液状化現象の発生 N=488	108 22.1%	130 26.6%	181 37.1%	69 14.1%
その他 N=75	20 26.7%	16 21.3%	21 28%	18 24%

その他の主な内容：言葉が通じないこと、医療、原子力発電所、国に帰れないこと

Q 1 - 3 (N=491)

「あなたは地震などの災害に対して、何か対策をしていますか。」

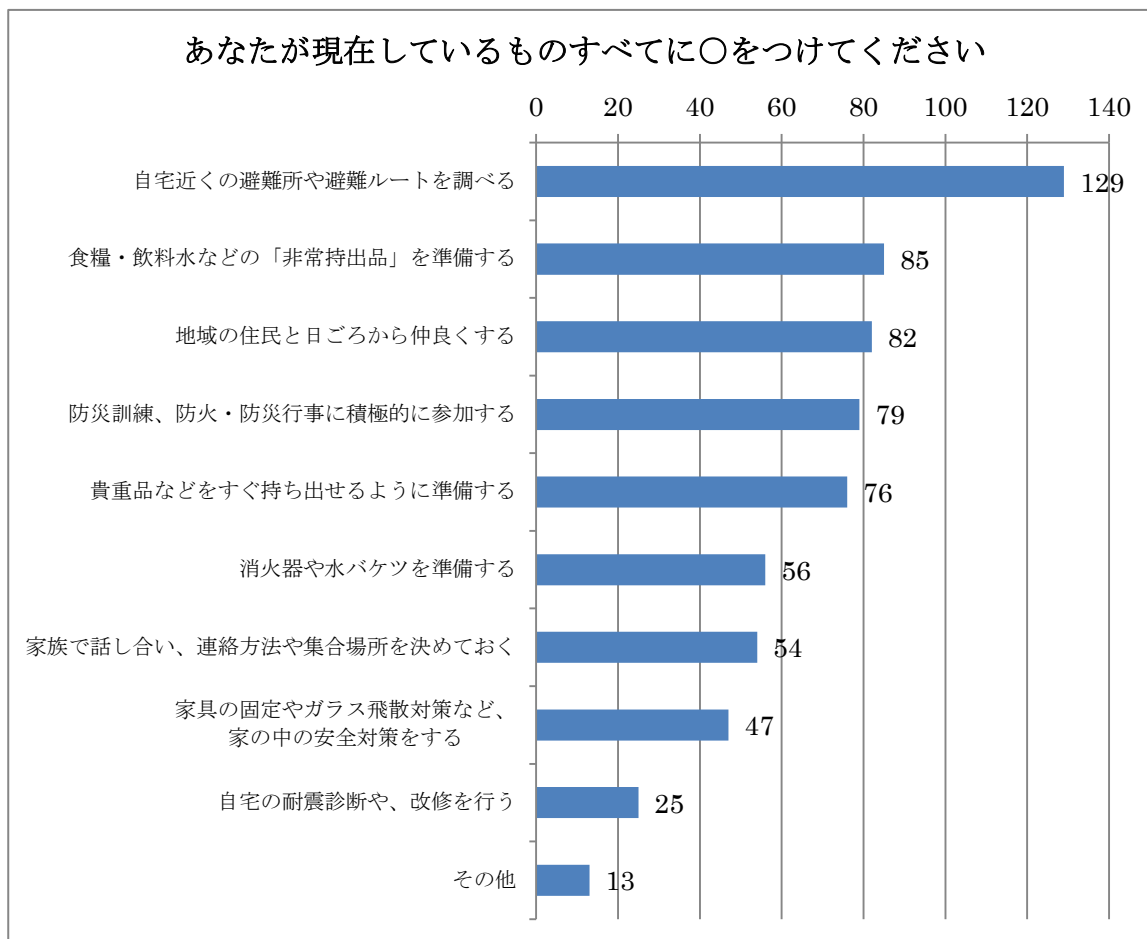
「している」と回答したのは 45.2% (222 人) で、「していない」と回答したのは 54.8% (269 人) となっている。半数以上が「していない」と回答。留学生に限ればその割合は 64.2%と高くなる。



Q 1 - 4 (N=208 複数回答)

「あなたが現在しているものすべてに○をつけてください。」

「自宅近くの避難所や避難ルート調べる」が 129 人で最も多く、以下、「食糧・飲料水などの「非常持出品」を準備する」が 85 人、「地域の住民と日ごろから仲良くする」が 82 人、「防災訓練、防火・防災行事に積極的に参加する」が 79 人、「貴重品などをすぐ持ち出せるように準備する」が 76 人となっている。

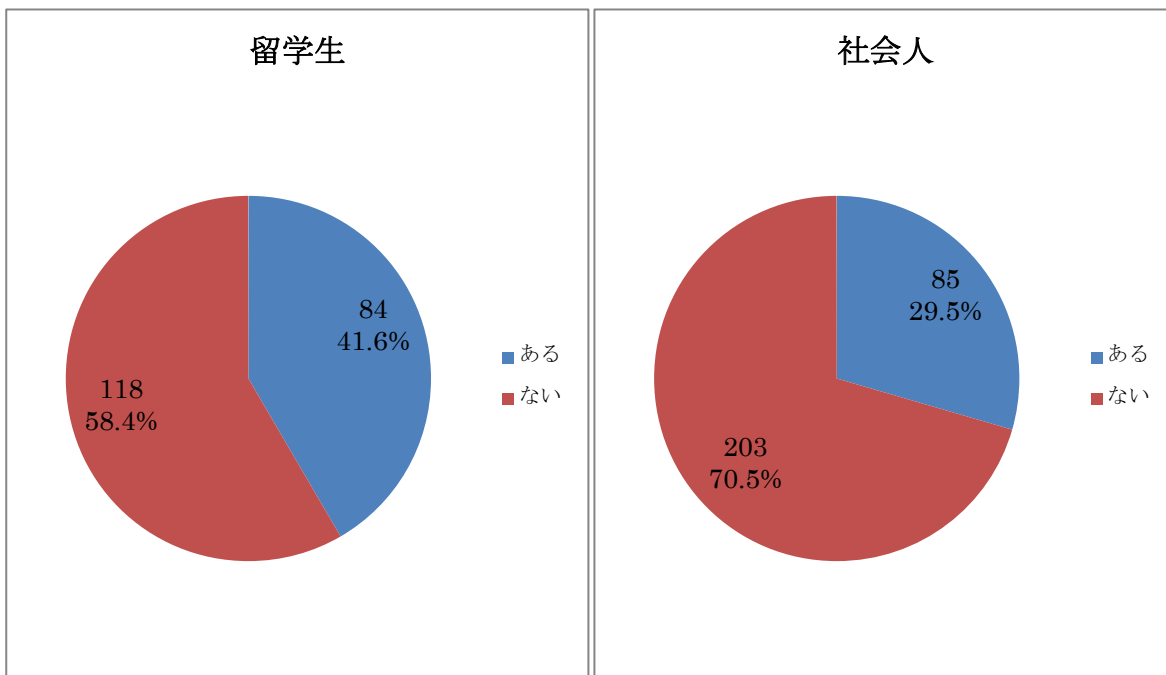
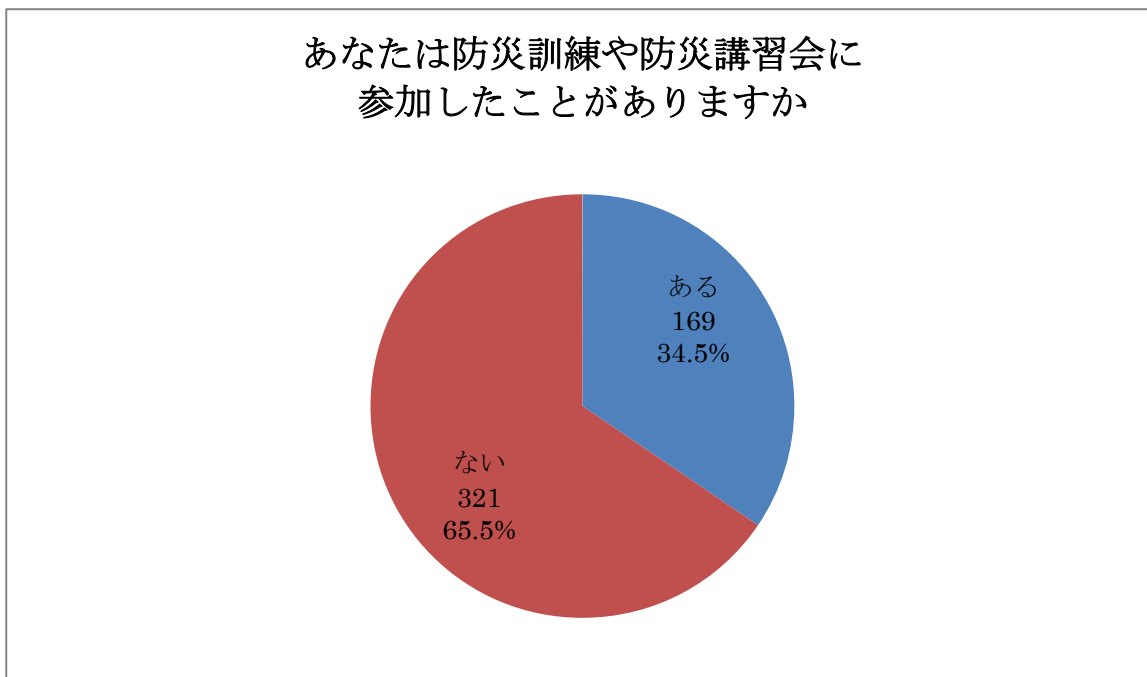


その他の主な内容：家の保険をかけること、お祈りすること

Q 1 - 5 (N=490)

「防災訓練や防災講習会に参加したことがありますか。」

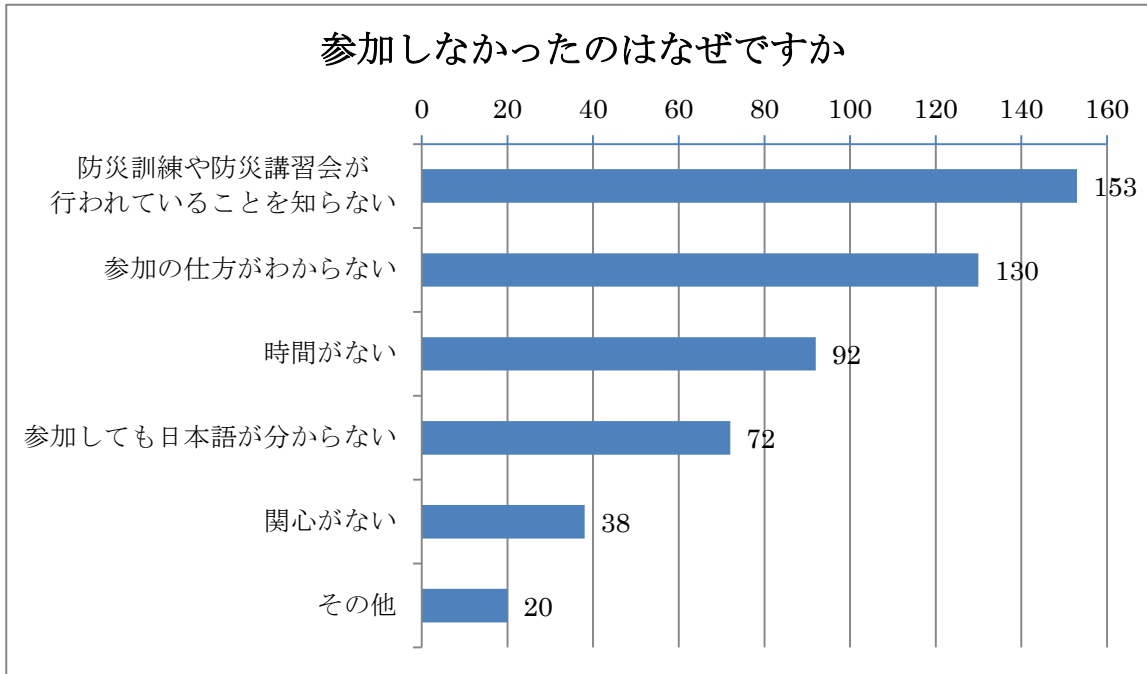
「ある」と回答したのは 34.5% (169 人) で、「ない」と回答したのは 65.5% (321 人) となっている。
社会人に限れば参加したことがない人が 7 割以上となる。



Q 1 - 6 (N=315 複数回答)

「参加しなかったのはなぜですか。」

「防災訓練や防災講習会が行われていることを知らない」が 153 人で最も多く、以下、「参加の仕方がわからない」が 130 人、「時間がない」が 92 人、「参加しても日本語がわからない」が 72 人となっている。

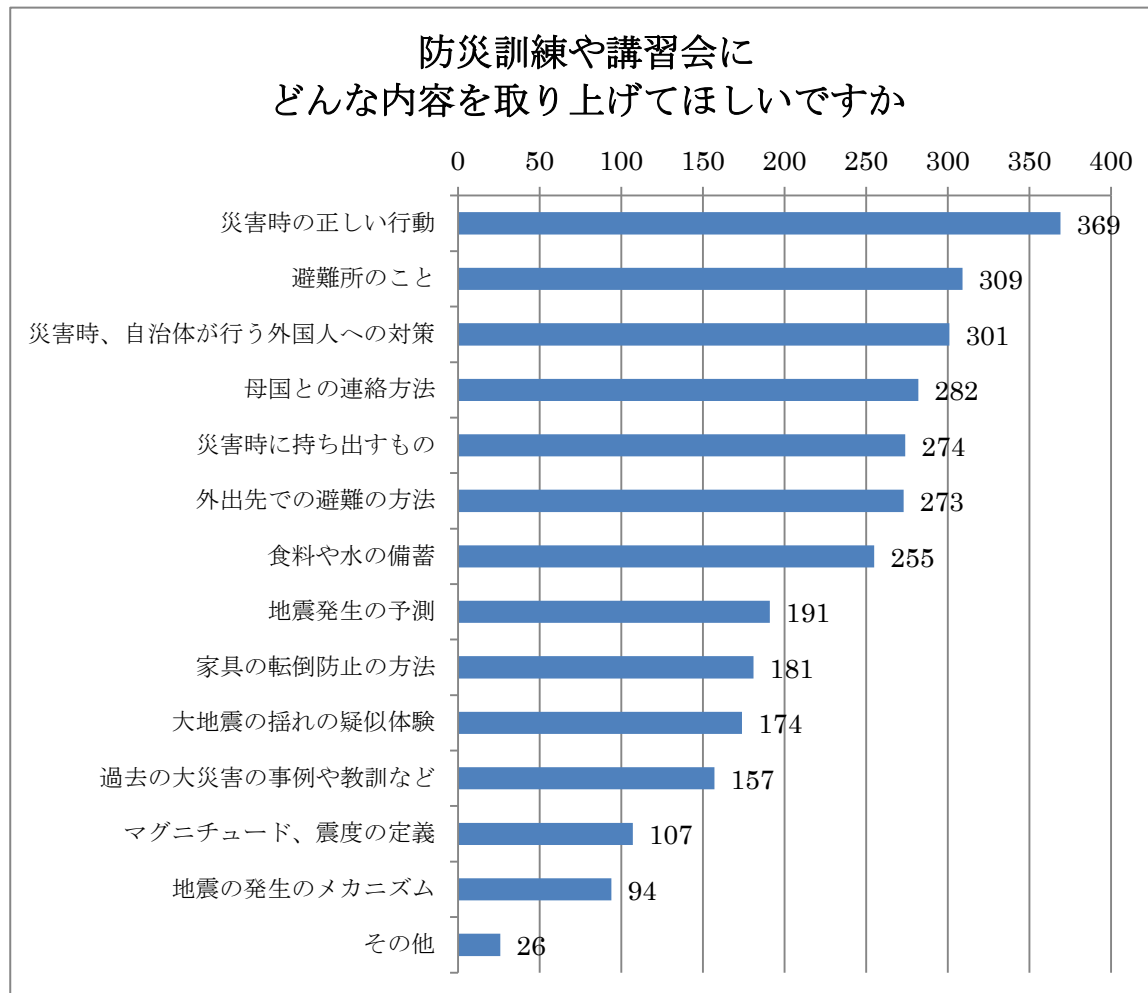


その他の主な内容：参加する機会がない、頻繁に開催されていない、有料かもしれない、家から遠い、必要ない

Q 1 - 7 (N=476 複数回答)

「あなたが防災訓練や講習会に参加するなら、どんな内容を取り上げてほしいですか。」

「災害時の正しい行動」が 369 人で最も多く、以下、「避難所のこと」が 309 人、「災害時、自治体が行う外国人への対策」が 301 人、「母国との連絡方法」が 282 人、「災害時に持ち出すもの」が 274 人、「外出先での避難の方法」が 273 人となっている。

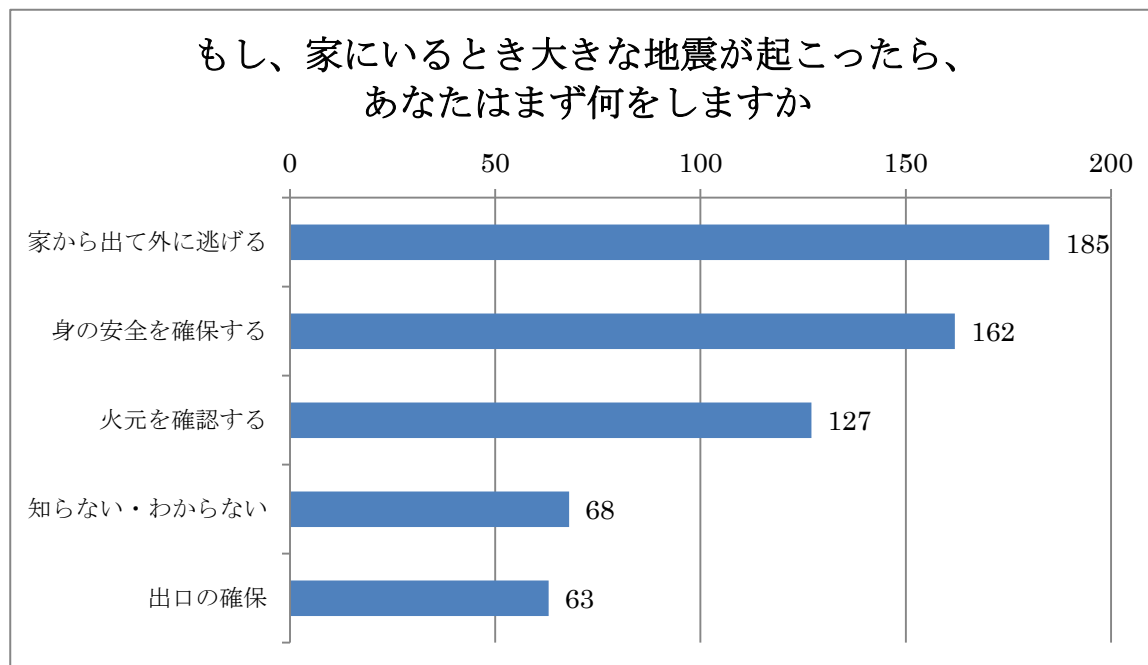


その他の主な内容：屋内での対処法、怪我などの応急処置法、初期消火方法、お祈りについて

Q1-8 (N=465 複数回答 自由記述)

「もし、家にいるとき大きな地震が起こったら、あなたはまず何をしますか。」

回答内容により以下のカテゴリーに分類した結果、「家から出て外に逃げる」が185人で最も多く、以下、机の下に隠れる、頭を守るなど「身の安全を確保する」が162人、「火元を確認する」が127人、「知らない、わからない」が68人、「出口の確保」が63人となっている。



カテゴリー	回答数	主な回答内容
家から出て外に逃げる	185	家から出る、逃げる、揺れが収まったら外に出る
身の安全を確保する	162	机・テーブル・ベッドなどの下に避難する、頭を守る、ガラスから離れる
火の元を確認する	127	火を消す、ガスを止める、電気を消す、コンセントを抜く
知らない・わからない	68	
出口の確保	63	ドアを開ける、玄関を開ける、窓を開ける、通路の確保

その他の主な内容：そのまま留まる、待つ、助けを求める、落ち着く、様子を見る、非常持出品を確認する、祈る、何もしない、テレビ、ラジオ、インターネットなどで情報を集める

Q 1 - 9 (N=489)

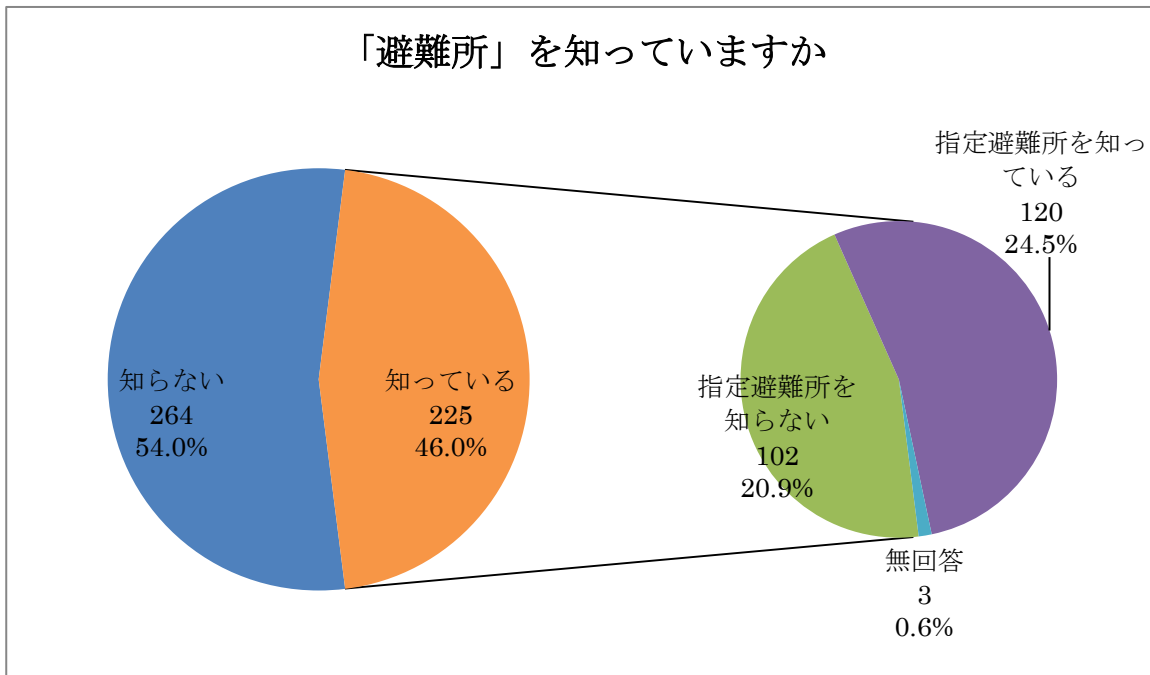
「避難所」を知っていますか。

「知っている」と回答したのは 46% (225 人) で、「知らない」と回答したのは 54% (264 人) となっている。

Q 1 - 1 0 (N=222)

「あなたは災害時に自分が避難する指定避難所が具体的にどこにあるか知っていますか。」

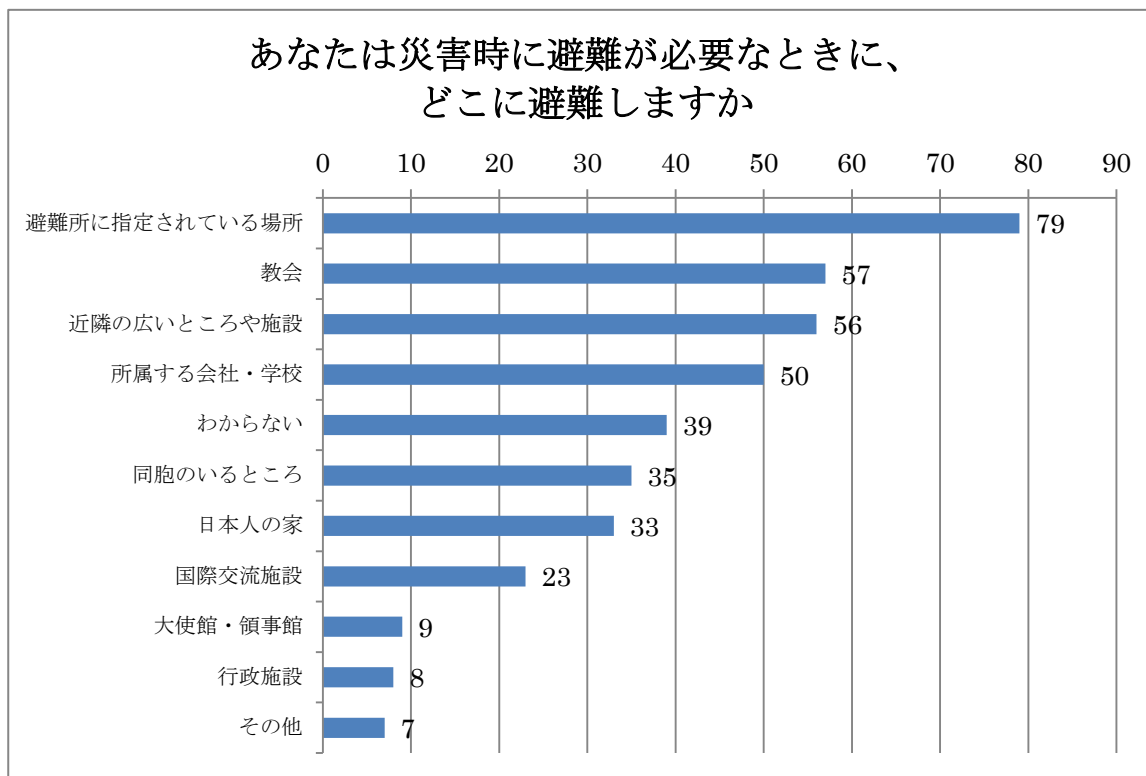
自分が避難する避難所を「知っている」と回答したのは 24.5% (120 人)。



Q1-11 (N=358 複数回答 自由記述)

「あなたは災害時に避難が必要なときに、どこに避難しますか。」

回答内容により以下9つのカテゴリーに分類した結果、「避難所に指定されている場所」が79人で最も多く、以下、「教会」が57人、「近隣の広いところや施設」が56人、「所属する会社・学校」が50人、「わからない」が39人となっている。日本人の家や国際交流施設との回答もあり、避難所ではなく自分がよく知っている場所を想定している人が多い。

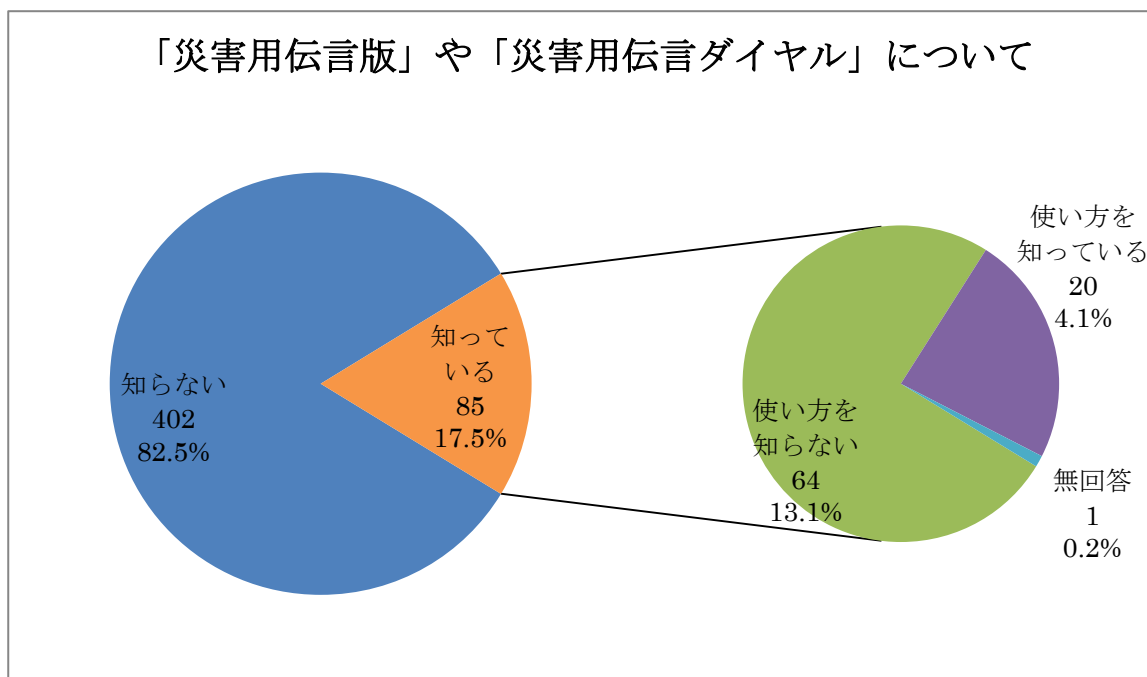


カテゴリー	回答数	主な回答内容
避難所に指定されている場所	79	小学校、中学校、公民館
教会	57	
近隣の広いところや施設	56	公園、広場、サッカー場、京都御所、二条城
所属する会社・学校	50	大学、職場、研究所
わからない	39	
同胞のいるところ	35	友人の家、親戚の家、他の留学生の家
日本人の家	33	日本語の先生の家、知り合いの日本人宅、日本人の友人の家
国際交流施設	23	京都市国際交流会館、京都府国際センター
大使館・領事館	9	
行政施設	8	市役所、役場、区役所、警察署
その他	7	コンビニ、図書館、自宅にとどまる

Q 1 - 1 2 (N=487)

「あなたは「災害用伝言版」や「災害用伝言ダイヤル」を知っていましたか。」

「知っている」と回答したのは 17.5% (85 人) で、使い方まで「知っている」と回答したのはわずか 4.1% (20 人) となっている。



Q 1 - 1 3 (N=82 自由記述)

「災害や防災について、ご要望、心配事、ご質問などがあればどのようなことでもご自由にお書きください。」

主な意見

要望

- 災害訓練が必要です。災害訓練、シミュレーションを学びたいです。
- 防災訓練は3月ごとに行ってほしい。
- 大地震の模擬体験をしてみたいです。
- 防災訓練があれば、誘って下さい。
- 長期在留時（若しくは短期の場合にも）には、義務的に災害・災難訓練をしてほしい。
- 日本語ができない外国人のため研修や訓練をやってほしい。
- 自然災害に対する避難訓練を外国人も受けられるようにしてください。
- 参加の都合が合わないので防災セミナーをもっと頻繁にやってほしい。
- 在日外国人に対する情報及び対処法を学習することが重要だと考える。特に、留学生などは災害への関心度が低いいため、関心を引くような対策が急務である。
- 学校における留学生に対する防災教育や災害の紹介を増やす。
- 防災に関する知識は少なすぎる、正しい指導を受けたい。
- どう行動すれば良いのか知りたい。
- 災害情報、防災情報を事前に告知する。
- 天災の情報を知りたい。

- 無料の防災冊子を提供する。
- 引っ越しの時に防災冊子を配られれば、避難所と災害用伝言ダイヤルなどがわかりやすくなる。
- 母国語のマニュアルを配布してほしい。
- 避難所を記した地図や電話番号などの情報がもっとあればいいと思います。
- 自分の町の細かい揺れのリスク地図・雨の表があったらいい。
- 市役所などは外国人のために災害時必ず避難方法を準備しておいてほしい。
- 自分の家から一番近い避難所を知りたい。
- 多言語での情報がもっとあればよい。福島の際の英語の情報は不十分だった。
- テレビや雑誌などに対策を載せて、もっと理解できるようになったらいいと思う。
- 災害発生時、速やかに情報が得られる方法を知りたい。(TV、ラジオ、インターネットなど具体的な)
- 災害時の最新情報を多言語で放送すれば、外国人はすぐ分かることが出来る。
- 英語でラジオの情報放送があればいいと思う。
- 報告や情報が載せてある英語メインのホームページがあった方がいい。
- 外国人に対しての宣伝活動は足りない。外国人が集まる場にチラシを配るが、外国人が多くない場所にはどうすればいいのか。徹底的に宣伝して欲しい。どこでもチラシをもらえればいい。
- 災害時の最新情報が分かるよう公共施設にはテレビを備えて欲しい。
- わかりやすい日本語やサインがあればいい。
- 緊急時にはインターネットを使いたい。
- 緊急時には母国の自宅に連絡を取りたい。
- 災害用伝言版と災害用ダイヤルの使い方について教えて欲しい。
- 災害時伝言版、災害時伝言ダイヤルの使い方のカードを作り、外国人入国の所に配る。
- 災害用伝言版・ダイヤルサービスなどは多言語で、被災地に中心の方がいいと思う。
- 外国人も簡単に使えるような災害伝言板のようなものについて情報がほしい。

心配事

- 母国との連絡は通じるか。電話、携帯で国際電話をかけられるかどうか。通信手段が遮断しないか。
- 友人が無事であるか、あるいは家族は無事であるか調べることができるか。
- 私たちみたいに日本語が出来ない人は災害時の十分な情報が得られるか。
- 災害による被害状況、安全な場所に対する情報。
- 政府や学校が情報をちゃんとくれるかどうか。
- マイクによってお知らせすると言われるが、宮城県で起こったように、その知らせが聞こえないのではないかと、怖い。
- 災害が起こったらどこへ避難するのか。
- 日常生活が維持できるのか。
- 誰が私たちをリードしてくれるのか。
- 3.11の地震のとき、災害や防災を担当する政府部門が、外国人に特別な対策・体制を実施したかどうか。

- 周りの知合いの人を失うのが怖い。
- 私は何も知らない。語学学校と大学もこのような留学生のための防災講座、訓練がない。
- 災害は心配だが、どうしたらよいか分からない。
- 大きい災害が起きる時、どうすればいい？
- 災害はいつ終わる。
- 地震の予測、いつ起こるか。
- 全国民の生命、財産
- 日本人皆が外国人を認めているわけではないので、支援をもらえるかどうか心配だ。しかし、周りに住んでいる日本人は優しく、私を手伝ってくれると思う。
- すぐに母国に帰れるかどうか？

質問

- もし地震があったら、日本政府は日本人と外国人を平等に対処しますか、あるいは日本人を優先で救うか？
- 災害が起きるとき、どこへ行けばいいのだろうか。
- 災害時、どうしたらいいか全然わからない、誰に最初に連絡した方がいい？どこへ避難すれば良いのか。
- 地震の際に最優先にやることは何なのか。
- 外国人のための避難所があるか？
- 海外の家族に連絡する方法を知りたい。
- 外国人がどのように日本人と話すのか。
- 防災情報は日本語以外で流せますか。
- 防災センターに電話したら外国人の対応ができますか。
- 災害時、日本ではどうするの？
- 大地震が起こったら、京都に津波が来る可能性がありますか。
- 災害や救急に関連する機関の迅速な対処（方法）
- 災害を防ぐ何か良い方法がありますか。
- 地震が発生すれば、家の中でどこが一番安全ですか？
- 急に災害が起こったら、日本政府は何をしますか。
- イスラム教徒のためのハラール食品の準備があるのか。
- 外国人は災害の時の保険がありますか。

その他

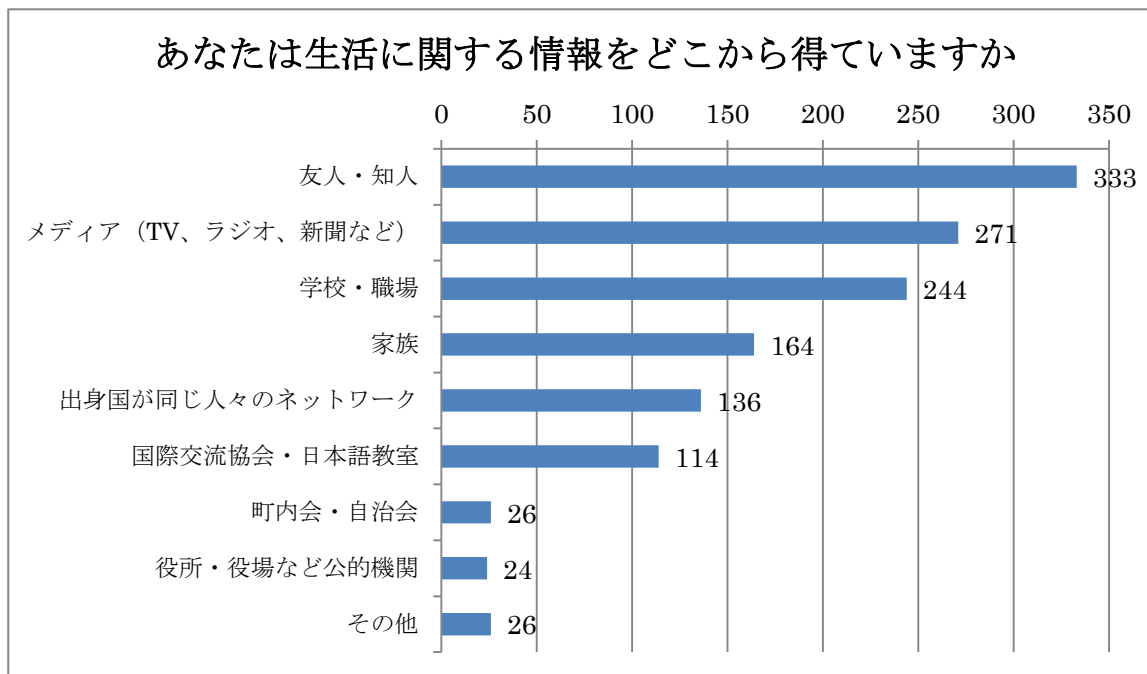
- 外国人にもこのような防災宣伝が行われていてありがとうございます。
- 京都の生活はけっこう安心。
- いくら災害を避けても、どうしようもないので、やはり一番必要なのは神様への信仰。
- こんなことを知ることが大事だと思うので、調べていく。
- いっぱいわからないことがあるから、また機会があれば勉強したい。

3. 日常での情報入手方法について

Q 2 - 1 (N=475 複数回答)

「あなたは生活に関する情報をどこから得ていますか。」

「友人・知人」が 333 人で最も多く、以下、「メディア」が 271 人、「学校・職場」が 244 人、「家族」が 164 人、「出身国が同じ人々のネットワーク」が 136 人、「国際交流協会・日本語教室」が 114 人となっている。

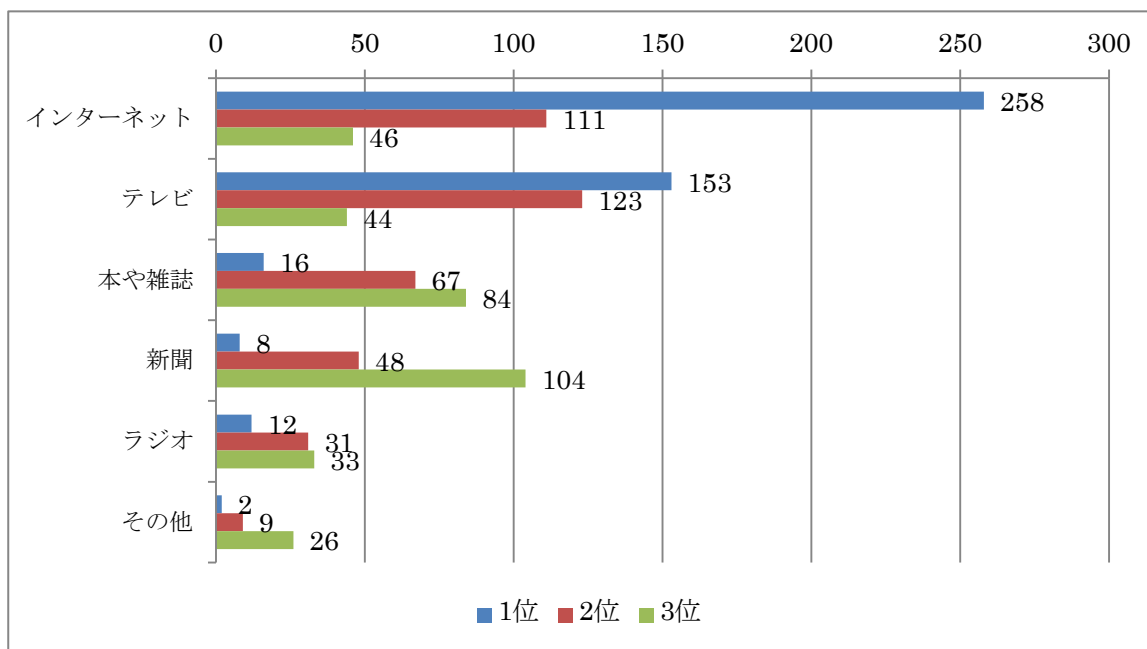


その他の主な内容：教会

Q 2 - 2 (N=490 複数回答)

「あなたが普段利用するメディアは何ですか。」

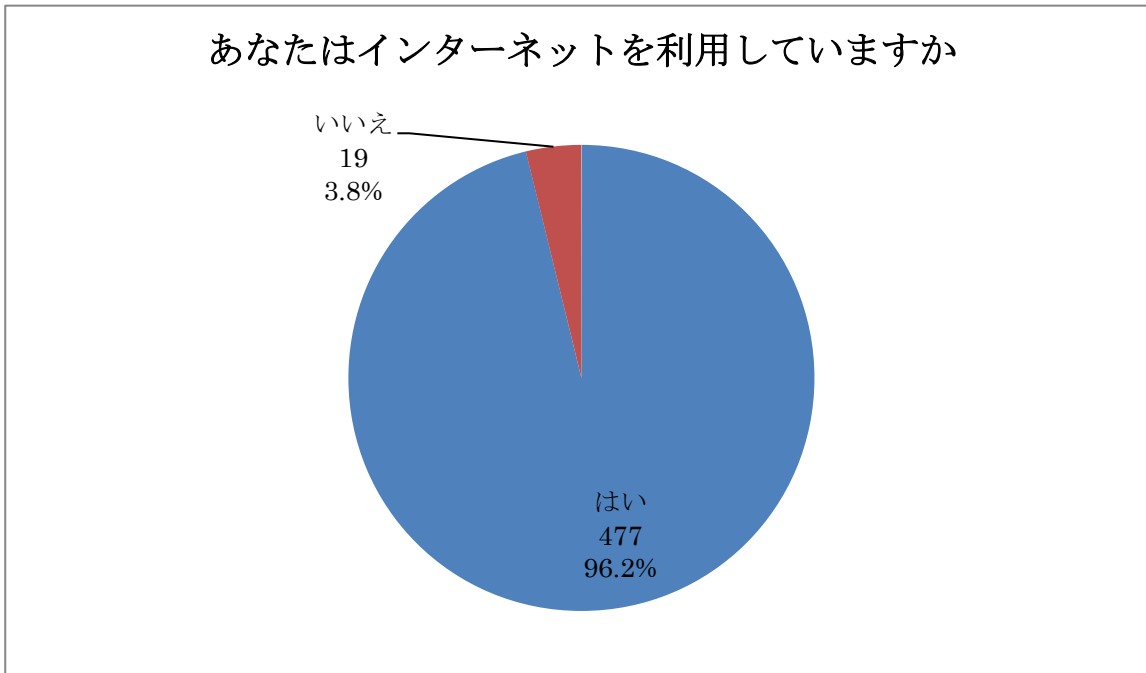
「インターネット」を優先順位の 1 位または 2 位としたのは 369 人で最も多く、次が「テレビ」で 276 人となっている。「ラジオ」の利用は少ない。



Q 2 - 3 (N=496)

「あなたはインターネットを利用していますか。」

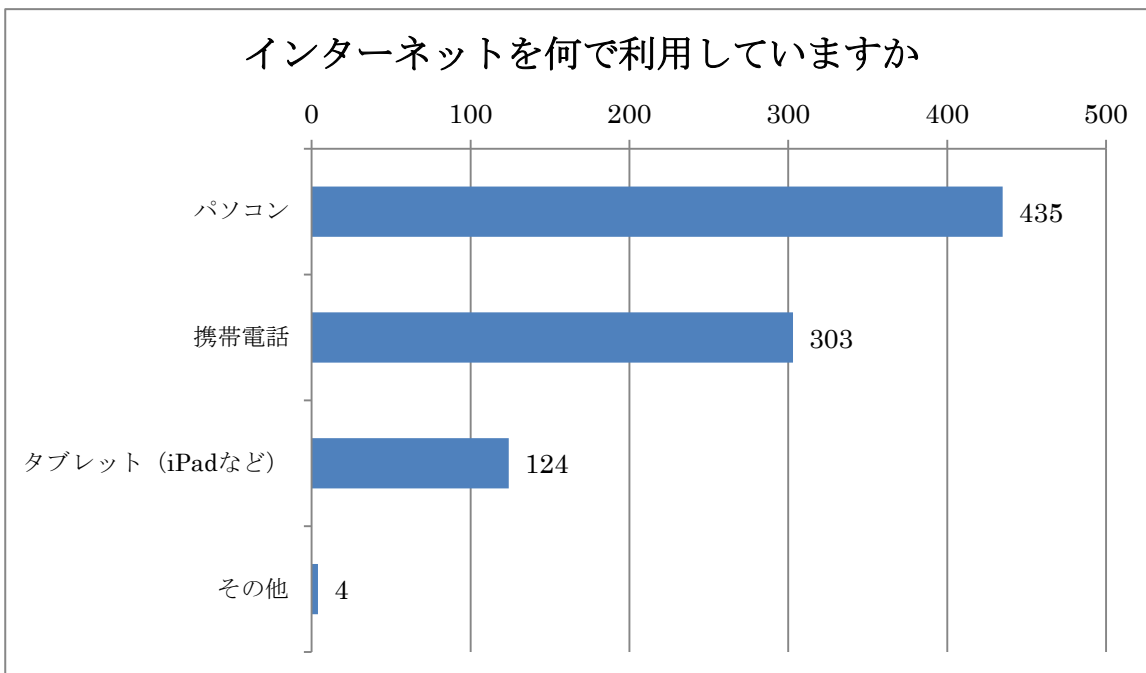
インターネットを利用していると回答したのは 96.2% (477 人) でほとんどの人が利用している。



Q 2 - 4 (N=477 複数回答)

「あなたはインターネットを何で利用していますか。」

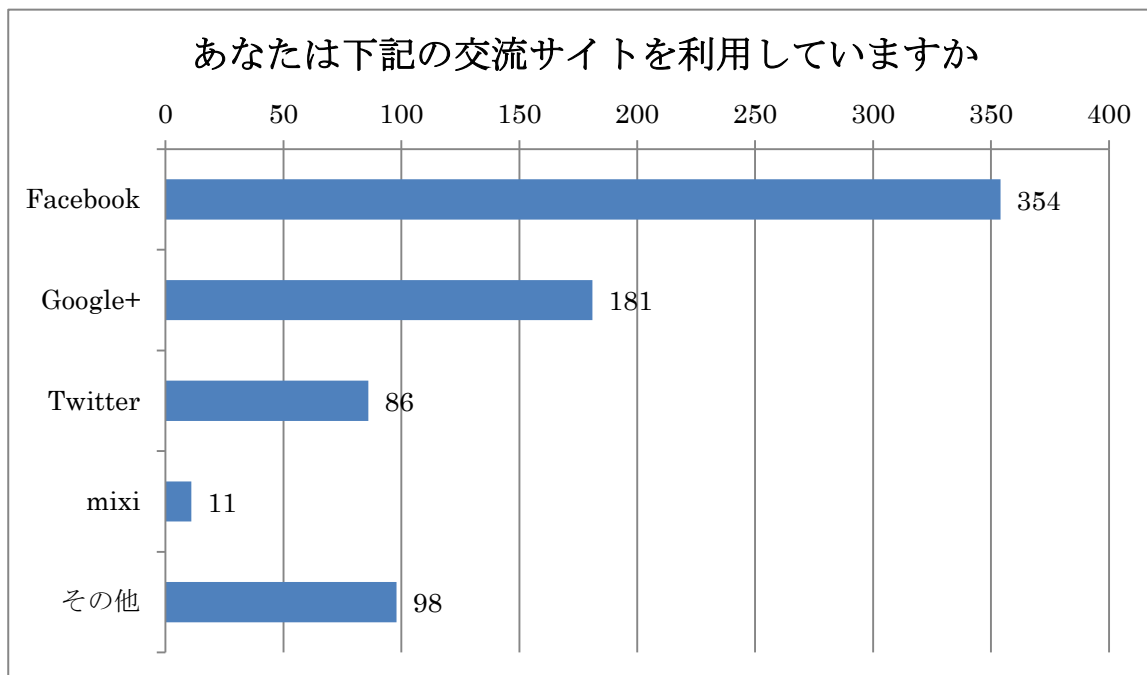
「パソコン」が 435 人で最も多く、以下、「携帯電話」が 303 人、「タブレット」が 124 人となっている。



Q 2 - 5 (N=433 複数回答)

「あなたは下記の交流サイトを利用していますか。」

「Facebook」が 354 人で最も多く、実に 8 割以上が利用している。



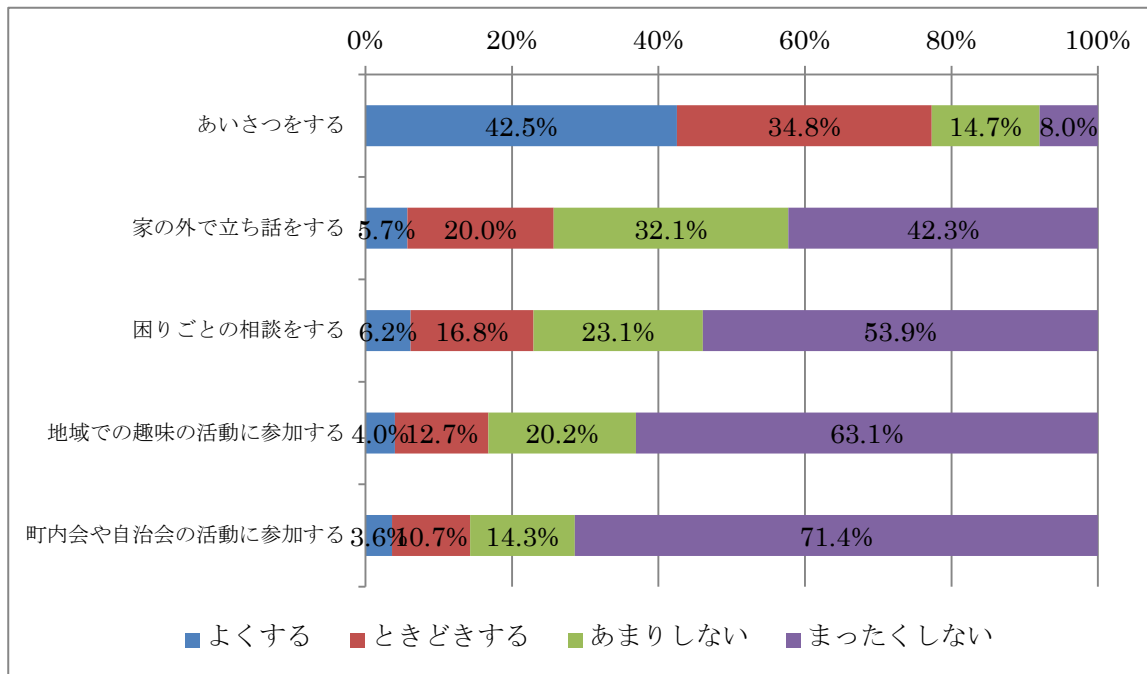
その他の主な内容：QQ、Weibo（微博）、Renren（人人網）、LINE、WeChat（微信）

4. 地域とのかかわりについて

Q3-1

「あなたはあなたの住んでいる地域の日本人と、どのくらい交流していますか。」

「あいさつをする」が77.3%（378人）で最も多い。一方で「町内会や自治会の活動に参加する」と回答したのはわずか14.3%（67人）となっている。

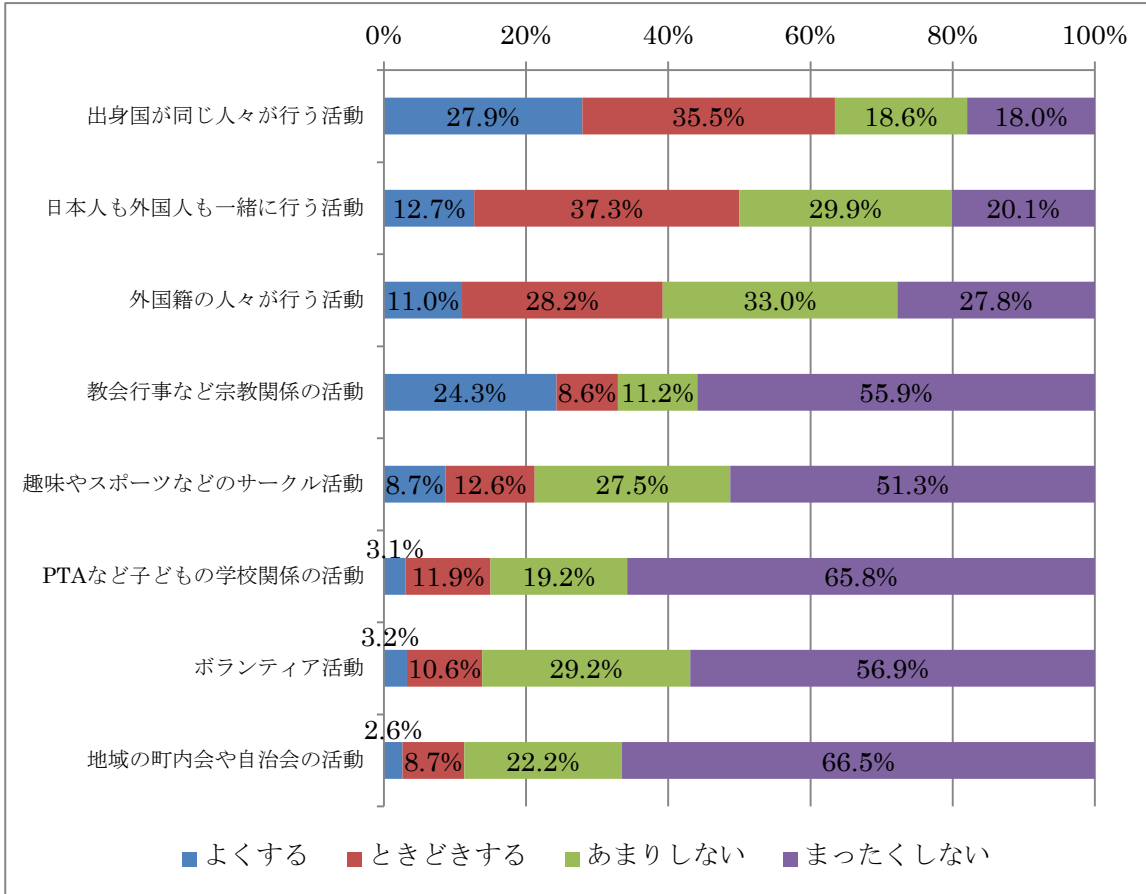


	よくする	ときどきする	あまりしない	まったくしない
あいさつをする N=489	208 42.5%	170 34.8%	72 14.7%	39 8%
家の外で立ち話をする N=471	27 5.7%	94 20%	151 32.1%	199 42.3%
困りごとの相談をする N=471	29 6.2%	79 16.8%	109 23.1%	254 53.9%
地域での趣味の活動に 参加する N=471	19 4%	60 12.7%	95 20.2%	297 63.1%
町内会や自治会の活動に 参加する N=469	17 3.6%	50 10.7%	67 14.3%	335 71.4%

Q3-2

「あなたは普段、趣味やスポーツ、情報交換や交流活動にどのくらい参加していますか。」

「出身国が同じ人々が行う活動」が 63.4% (300 人) で最も多く、以下、「日本人も外国人も一緒に行う活動」が 50% (236 人)、「外国籍の人々が行う活動」が 39.2% (182 人)、「教会行事など宗教関係の活動」が 32.9% (156 人) となっている。



	よくする	ときどきする	あまりしない	まったくしない
出身国が同じ人々が行う活動 N=473	132 27.9%	168 35.5%	88 18.6%	85 18%
日本人も外国人も一緒に行う活動 N=472	60 12.7%	176 37.3%	141 29.9%	95 20.1%
外国籍の人々が行う活動 N=464	51 11%	131 28.2%	153 33%	129 27.8%
教会行事など宗教関係の活動 N=474	115 24.3%	41 8.6%	53 11.2%	265 55.9%

趣味やスポーツなどのサークル活動 N=462	40 8.7%	58 12.6%	127 27.5%	237 51.3%
PTA など子どもの学校関係の活動 N=453	14 3.1%	54 11.9%	87 19.2%	298 65.8%
ボランティア活動 N=462	15 3.2%	49 10.6%	135 29.2%	263 56.9%
地域の町内会や自治会の活動 N=460	12 2.6%	40 8.7%	102 22.2%	306 66.5%
その他 N=50	8 16%	3 6%	6 12%	33 66%

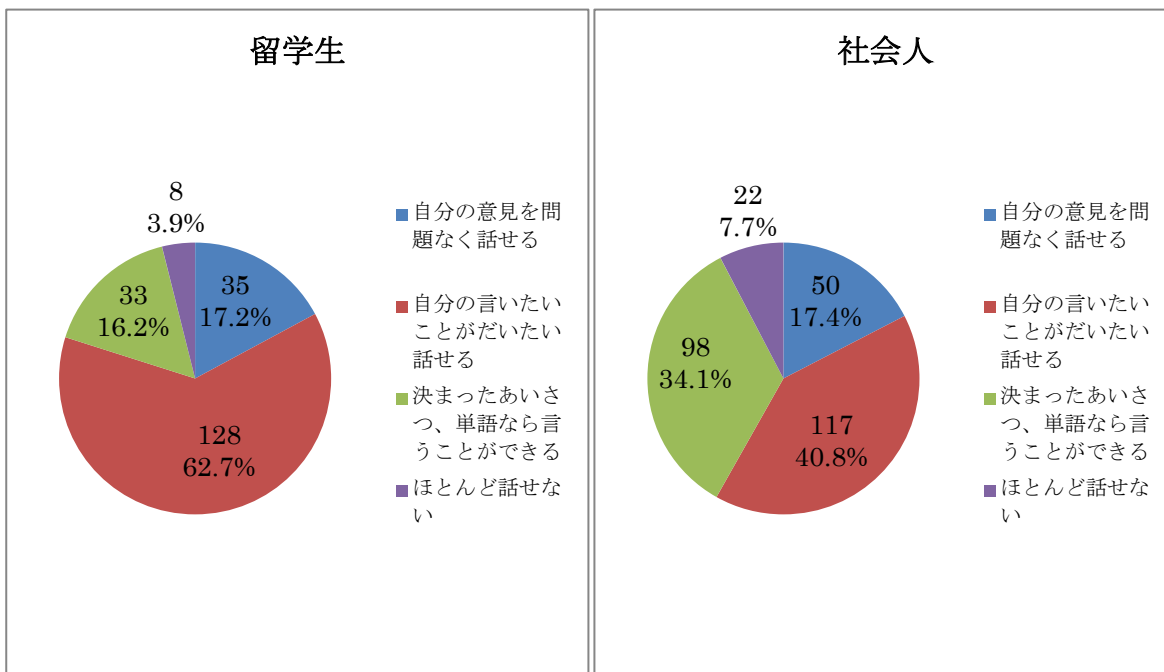
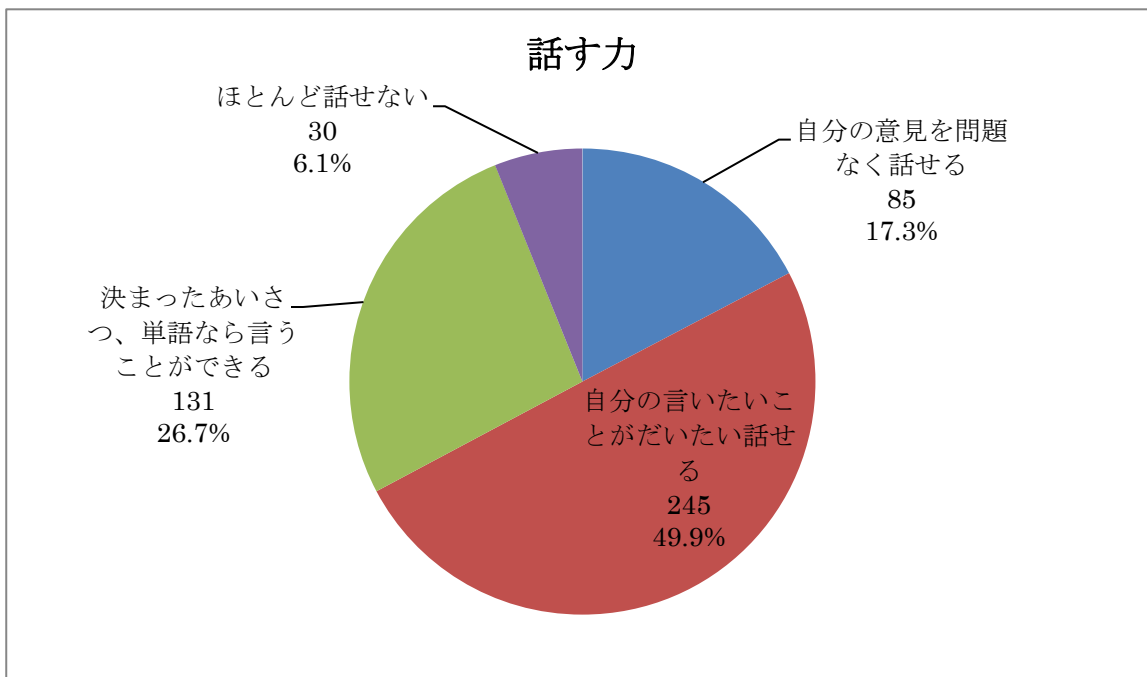
参考：回答者の使用言語について

Q 4-1

「あなたの日本語能力について」

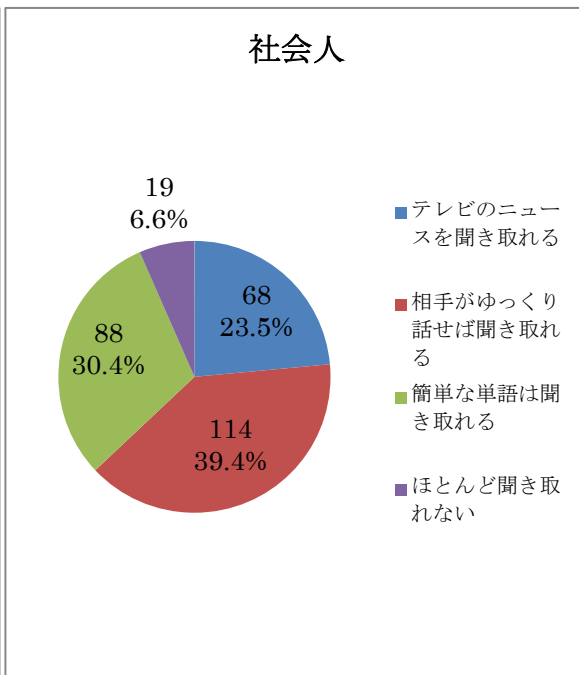
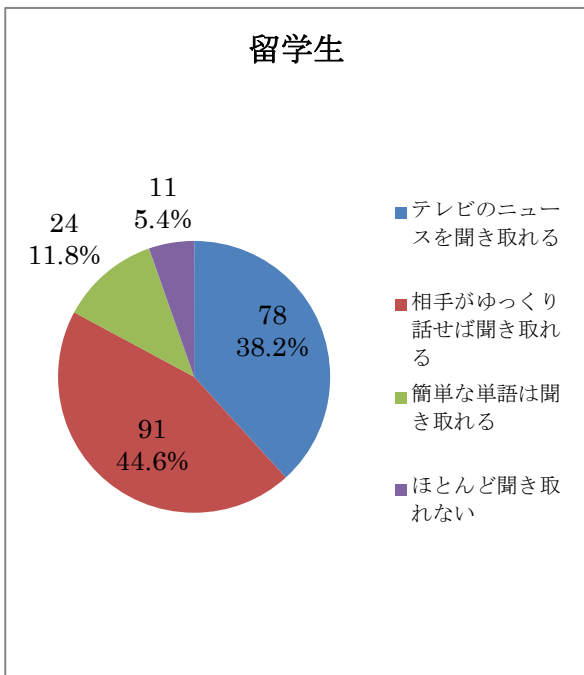
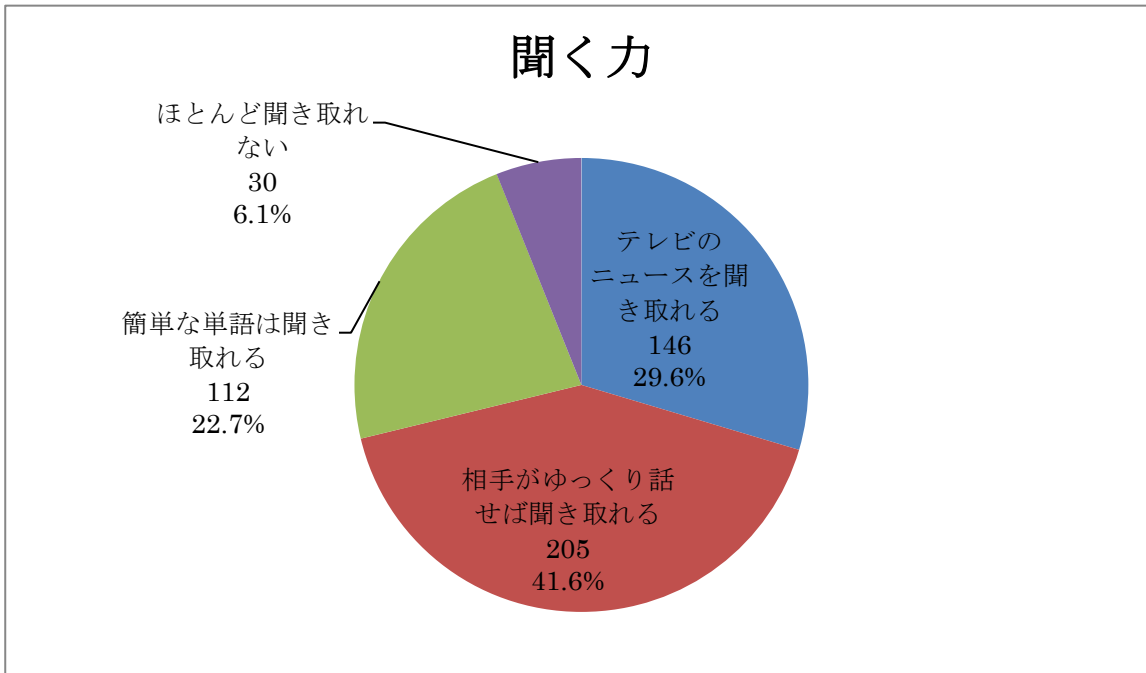
①話す力 (N=491)

「決まったあいさつ、単語なら言うことができる」と「ほとんど話せない」を合わせると 32.8% (161人) で、社会人では 41.8%と高い割合になる。



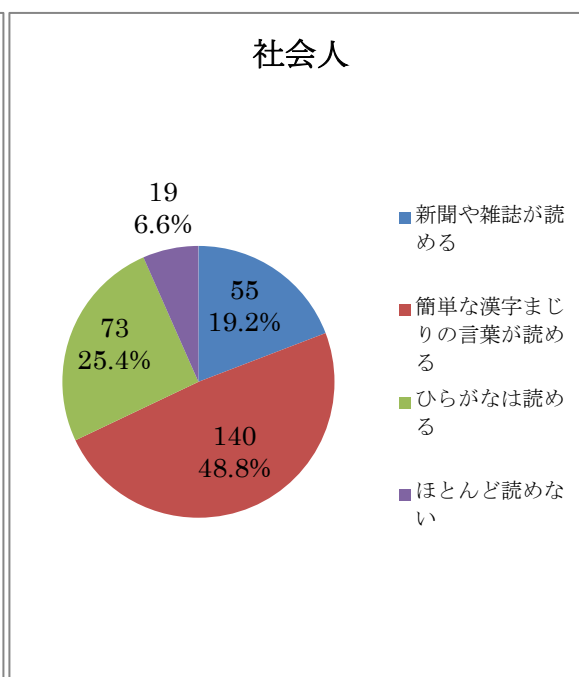
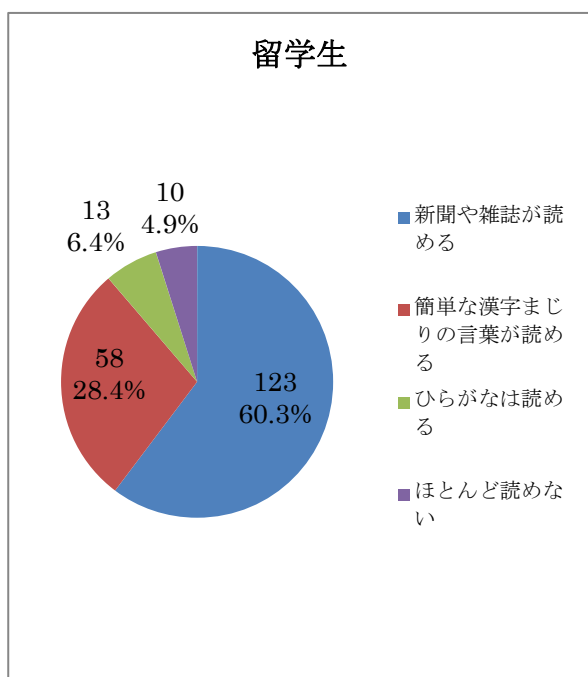
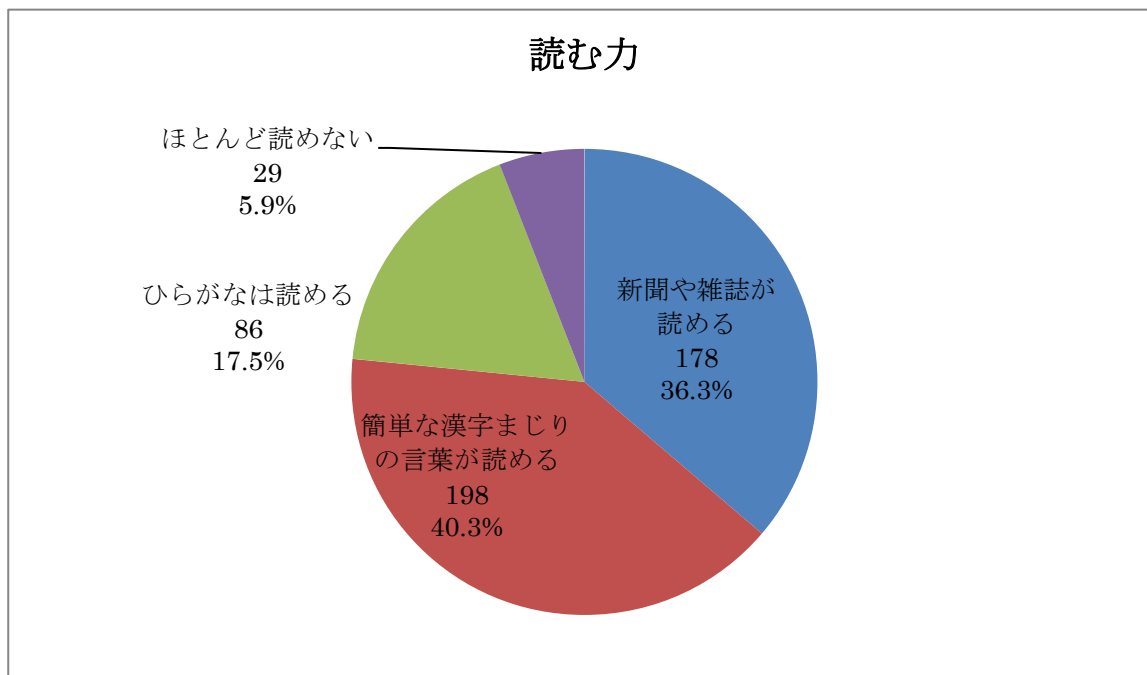
②聞く力 (N=493)

「相手がゆっくり話せば聞き取れる」が 41.6% (205 人) で最も多い。「簡単な単語は聞き取れる」を合わせると 64.3% (317 人) となり、ゆっくりと簡単な単語で話せば多くの人に伝わるのがわかる。



③読む力 (N=491)

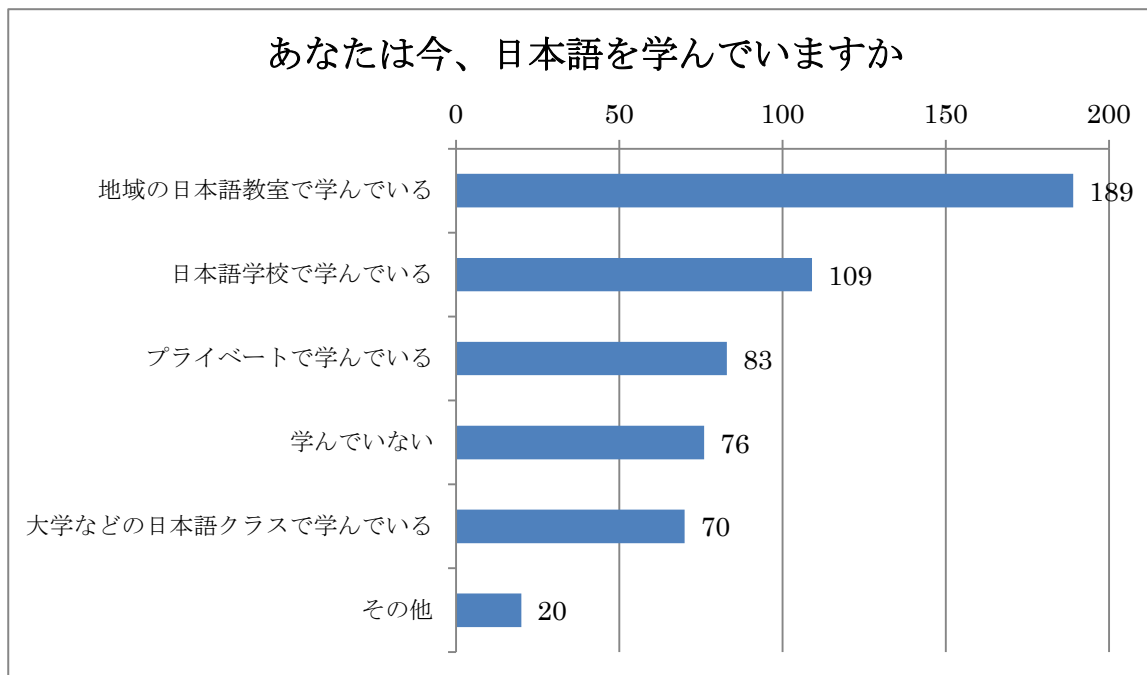
「簡単な漢字まじりの言葉が読める」が 40.3% (198 人) で最も多いが、読む力については留学生と社会人の差が大きい。



Q 4 - 2 (N=492 複数回答)

「あなたは今、日本語を学んでいますか。」

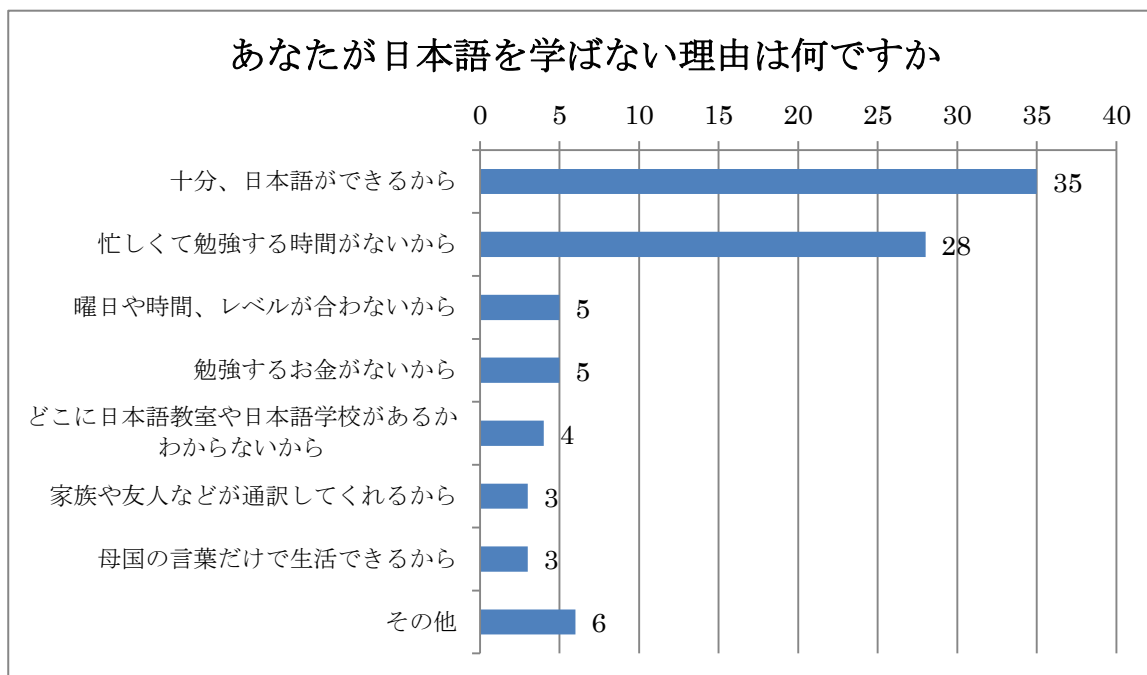
「地域の日本語教室で学んでいる」が 189 人で最も多く、以下、「日本語学校」109 人、「プライベート」83 人と続く。



Q 4 - 3 (N=75 複数回答)

「日本語を学ばない理由」

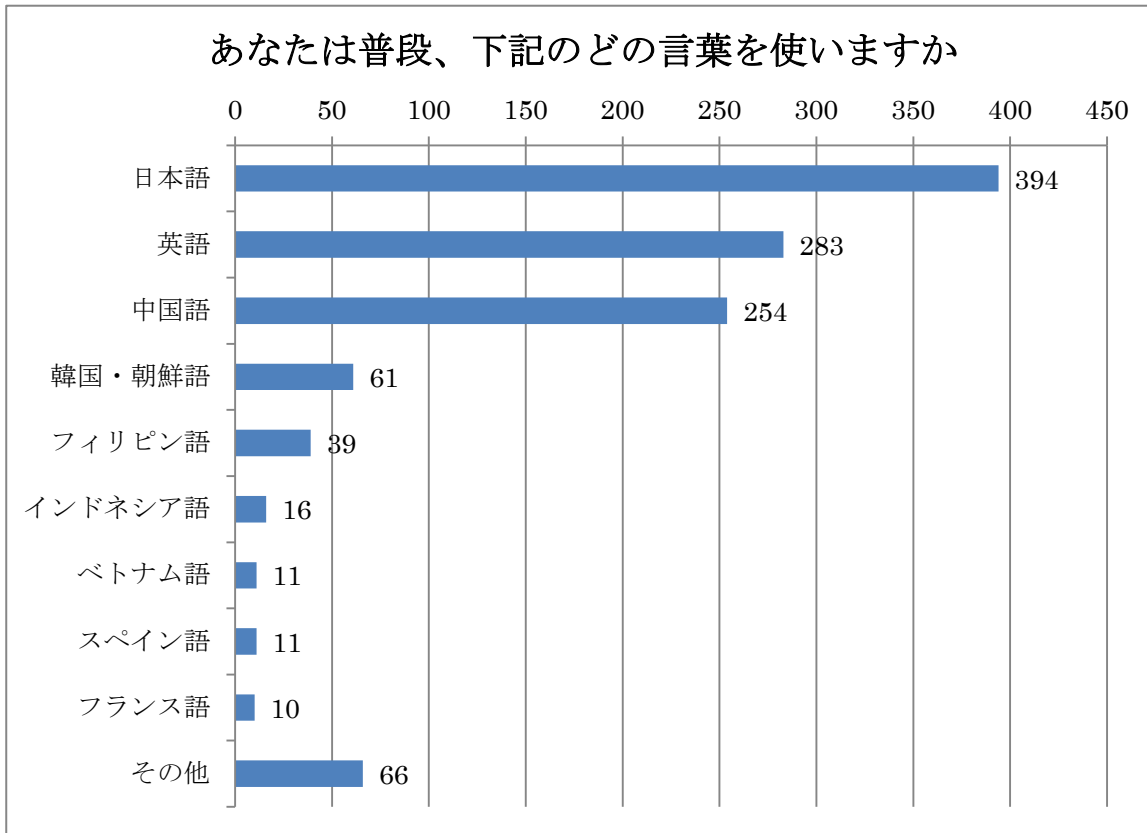
「十分、日本語ができるから」が 35 人で最も多く、「忙しくて勉強する時間がないから」が 28 人で続く。



Q 4 - 4 (N=496 複数回答)

「あなたは普段、下記のどの言葉を使いますか。」

「日本語」が 394 人で最も多く、以下、「英語」 283 人、「中国語」 254 人と続く。



IV. 分析結果

京都府外国人住民の防災意識に関する一考察

1. 外国人住民も地震と津波に大きな不安

外国人住民はどのような災害に不安を感じているのだろうか。(Q1-1)の結果では、外国人住民の社会人(以下、社会人と省略)も留学生も1位は「地震」となり、その割合は、社会人64.4%、留学生48.5%であった。同様の日本人への調査である明治安田生命「震災に関するアンケート調査」*1でも、1位が「地震」で、90.9%という結果がでていいる。やはり2011年の東日本大震災の影響が大きく出ているようだが、その割合に注目すると、外国人住民が各項目に感じている不安は日本人よりも低く、特に留学生ではすべての項目について50%を下回る。留学生は災害に対する関心や危機感が、日本人や社会人に比べて低いということが読み取れる。

「津波」に不安を感じる割合は、日本人が24.4%(5位)であるのに対して、社会人は36.8%(4位)である。明治安田生命の地区別データでは、近畿地区は日本で最も低く17.2%となっており、本調査と比較すると、外国人住民の社会人はそのほぼ2倍の人が不安を感じていることになる。京都府内では北部の日本海側以外は海に面していないにもかかわらず、このように不安を感じている外国人住民は多い。むやみに不安になる必要はないものの、旅行や仕事で海の近くへ行き、地震や津波に襲われる可能性もあるため、津波に関する知識は必須である。いずれも、正しく理解し、正しく恐れ、正しく準備することが必要である。

(表1) (Q1-1) 災害への不安 日本人との比較

	社会人		留学生		日本人 *1	
1位	地震	64.4%	地震	48.5%	地震	90.9%
2位	台風	43.3%	台風	28.2%	集中豪雨・土砂災害等	52.7%
3位	集中豪雨	38.8%	集中豪雨	26.6%	落雷	46.6%
4位	津波	36.8%	津波	25.5%	竜巻	25.2%
5位	落雷	34.9%	落雷	23.9%	津波	24.4%

・「不安」とは「とても不安」と「やや不安」の合計を比較。なお、日本人の回答項目には「台風」の選択肢はない。

2. 災害発生時の不安、内容に日本人との違い

(Q1-2)では災害が発生したときに列挙したことがらがどのくらい「不安」なのかを数値で回答してもらったところ、社会人では14項目のすべてにおいて50%以上の人が「不安」と回答した。明治安田生命の日本人の回答では、50%を超えるのは7位以上の項目であることに比べると、災害に対する不安は日本人以上であることがわかる。(表2)

日本人と比較して順位が異なっているのは、「災害情報の入手」、「帰宅困難」、「家具の倒壊損傷」の3項目である。まず「災害情報の入手」については、日本人が9位であるのに対して、社会人は13位、留学生は10位である。東日本大震災時にはインターネットや携帯電話がまったく使えないといった状況も発生したが、たとえ情報が全く取れない状況であっても、安全に避難する方法は知っておかなければならない。

「帰宅困難」については、日本人13位に対して社会人9位、留学生は6位であった。東日本大震災時

には「帰宅難民」の様子が連日報道され、目にすることが多かったのが高くなった要因とも考えられるが、不慣れた土地での帰宅困難に対して、日本人以上に不安が大きいと考えられる。

「家具の倒壊損傷」については、日本人8位、社会人9位と比較して留学生は14位と特に低い。留学生の住居環境は宿舍や寮で家具や荷物が少ないことも多いが、発災時に身の安全を図り、出口を確保するためにも、室内の安全対策に無関心であってはならない。

また、留学生の「その他」には、「死体処理」「伝染病の発生と拡大」「動乱」といった日本人からは出てこないような回答もみられた。これらは文化や生活環境、経験の違いなどによるものも多いが、こうした不安要因が誤った行動や無用なトラブルに発展しないよう、丁寧に説明する機会の提供が必要である。

(表2) (Q1-2)「災害が発生した時に心配なこと」日本人との比較

	社会人		留学生		日本人 *1	
1位	家族の安否	85.5%	家族の安否	88.1%	家族の安否	93.4%
2位	水道、電気、ガスが止まること	84.1%	通信手段が遮断、連絡が取れない	82.2%	水道、電気、ガスなどの確保	85.1%
3位	通信手段が遮断、連絡が取れない	80.6%	食料品の確保	79.7%	食料品の確保	80.1%
4位	食料品の確保	81.1%	水道、電気、ガスが止まること	78.2%	通信手段	71.6%
5位	家屋の倒壊損傷	79.0%	火災の発生	76.7%	家屋の倒壊	70.7%
6位	火災の発生	77.3%	帰宅困難になる	72.3%	火災の発生	68.4%
7位	家具の倒壊損傷	68.3%	家屋の倒壊損傷	68.8%	生活用品の確保	60.0%
8位	生活用品の確保	67.8%	避難場所の確保	59.9%	家具の倒壊	47.8%
9位	帰宅困難になる	67.0%	生活用品の確保	58.4%	災害情報の入手	46.8%
10位	避難場所の確保	66.0%	災害情報の入手	55.4%	避難場所の確保	44.1%
11位	交通機関のマヒ	56.1%	交通機関のマヒ	54.4%	治安の悪化	42.2%
12位	治安の悪化	57.0%	治安の悪化	49.5%	交通機関のマヒ	37.6%
13位	災害情報の入手	52.6%	液状化現象の発生	46.0%	帰宅困難	34.3%
14位	液状化現象の発生	50.0%	家具の倒壊損傷	40.6%	液状化	19.6%

3. 災害の備えをしていない人の属性

災害に対して不安を感じているならば、どのくらい具体的な対策をしているのだろうか。(Q1-3)の結果によると、「特に何もしていない」は社会人では48.3%、留学生では64.2%という回答であった。そこで社会人のデータを(A)「対策をしているグループ」と(B)「対策をしていないグループ」に分け、その属性について比較検討を行ってみたところ、以下のような回答に大きな違いが見られた。(表3)

(表3)

(Q3-1) 地域との交流度合い										
(A)「している」:平均点 2.28 点 > (B)「していない」:平均点 2.02 点										
(Q3-2) 他者との交流の度合い (趣味やスポーツ、情報交換や交流活動の参加度)										
(A)「している」:平均点 2.17 点 > 「していない」:平均点 1.99 点										
(Q5-3) 国籍 (単位:人)										
	中国	フィリピン	ベトナム	インドネシア	台湾	韓国・朝鮮	英国	米国	タイ	ブラジル
(A) している	36	26	10	9	6	16	2	6	3	1
(B) していない	33	8	8	6	6	22	11	9	5	0
(Q5-⑥) これまでの在住期間 (単位:人)										
	1年未満	1年から3年未満	3年から5年未満	5年から10年未満	10年以上					
(A) している	28	46	12	34	22					
(B) していない	67	30	6	24	15					
(Q5-⑧) 家族に日本人はいるかどうか (単位:人)										
		はい	いいえ							
(A) している		61	80							
(B) していない		43	99							

※ (Q3-1, 2)「よくする」=4、「ときどきする」=3、「あまりしない」=2、「まったくしない」=1として各人の平均点を算出し、「対策をしているグループ」と「対策をしていないグループ」の平均点を比較した。

これらのデータから、「母国にもともと地震が少ない」「来日して間もない」「地域や他者との交流があまりない」「家族に日本人がいない」という属性の外国人住民は防災への関心が低く、災害対策をしていない傾向が強いといえる。外国人住民の中でも、こうした属性に該当する人への防災教育は特に力を入れることが必要である。

4. 具体的な防災対策と防災知識

外国人住民は、具体的にどのような対策をしているのだろうか。(Q1-4)の社会人の結果を京都市の調査結果*2と比較してみた(表4)。4位の「地域の住民と日ごろから仲良くする」という項目の割合は23.2%と日本人の「普段のご近所づきあい」12.2%と比較しても高く、7位の「防災訓練、防火・防災行事に積極的に参加する」という回答は17.0%と日本人の16.6%とほぼ変わりなく、外国人住民が意識して取り組んでいることがくみ取れる。しかし、その他の項目では日本人のほぼ半分の割合となっている。

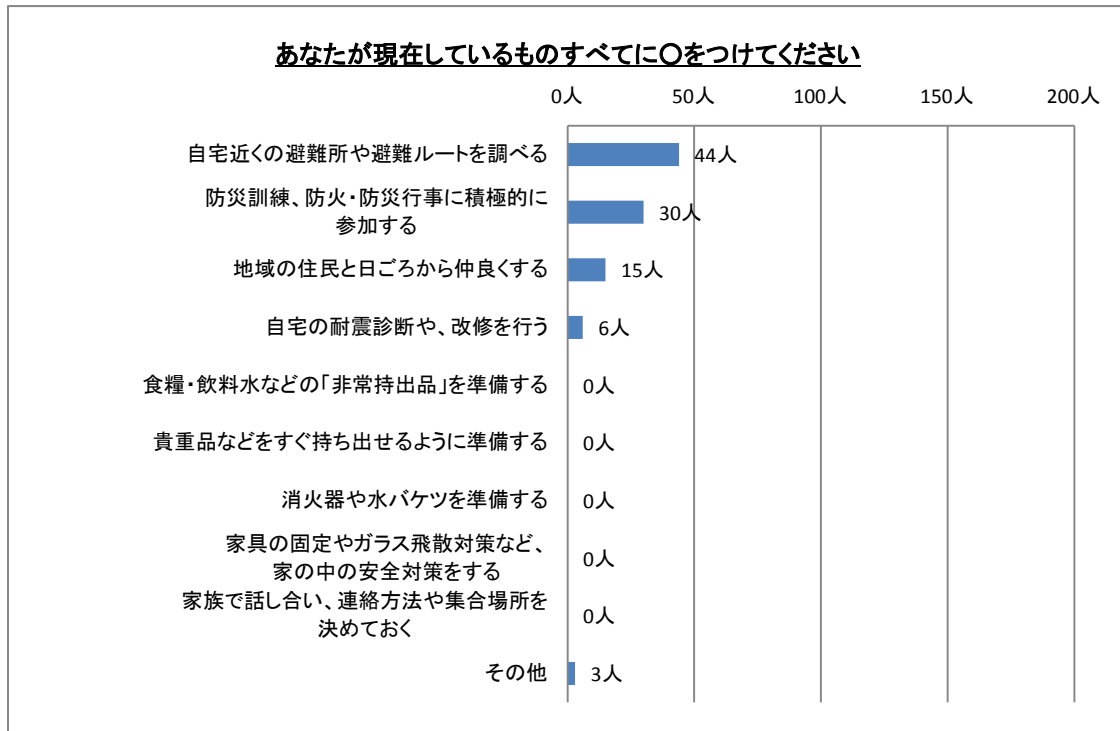
(表4) (Q1-4) 地震などの災害に対する具体的な対策について 日本人との比較

	社会人		日本人*2	
1位	自宅近くの避難所や避難ルートを探る	29.4%	避難場所・ルートの確認	62.9%
2位	食糧・飲料水などの「非常持出品」を準備する	29.4%	食料品の買い置きや非常食を用意する	54.8%
3位	貴重品などをすぐ持ち出せるように準備する	26.3%	非常持ち出し品を用意する	51.6%
4位	地域の住民と日ごろから仲良くする	23.2%	普段のご近所づきあい	12.2%
5位	消火器や水バケツを準備する	19.4%	—	—
6位	家族で話し合い、連絡方法や集合場所を決めておく	18.7%	家族の連絡方法や集合場所を確認する	57.0%
7位	防災訓練、防火・防災行事に積極的に参加する	17.0%	防災訓練に参加する	16.6%
8位	家具の固定やガラス飛散対策など、家の中の安全対策をする	16.3%	家具の固定など転倒防止対策を行う	30.8%
9位	自宅の耐震診断や、改修を行う	6.6%	自宅の補強強化	3.3%

また、6位の「家族で話し合い、連絡方法や集合場所を確認する」という項目は18.7%と日本人の57.0%と比較して特に低い。東日本大震災は平日の昼間に起こったため、家族がばらばらの場所で被災したケースも多かったが、様々な季節、時間帯、家族の状況での発災を想定し、「家族で話し合い、連絡方法や集合場所を確認する」ことも伝えておかなければならない項目の一つである。

一方、留学生の具体的な防災対策については、35.8%が「防災対策をしている」(Q1-3)と回答し、41.6%が「防災訓練や防災講習会に参加したことがある」(Q1-5)と回答しているにも関わらず、具体的な対策については表5のように4種類の回答しか得られなかった。留学生は前章で分析した「来日して間もない」「地域や他者との交流があまりない」「家族に日本人がいない」という属性に該当し、防災への関心も低い。より具体的で防災意識を高める防災訓練や講習会の実施が求められる。

(表5) 留学生の避難対策の実態 ((Q1—4) 留学生回答数 58人 無回答 146人 複数回答)



5. 大きな地震が起ころうとしても、何の対策も思いつかない

(Q1-8) では、「もし、家にいるとき大きな地震が起ころうしたら、あなたはまず何をしますか。3つ答えてください」と質問し、記述式で回答してもらった。ここでは、①「身の安全を確保する」、②「火元を確認する」、③「出口の確保」という災害時に身を守るための基本的な行動がどのくらい回答できるのかについて分析を試みた。「①②③の行動」と「①②③以外の行動」、そして「④知らない・わからない」「⑤何もしない」を表したのが図1、図2である。

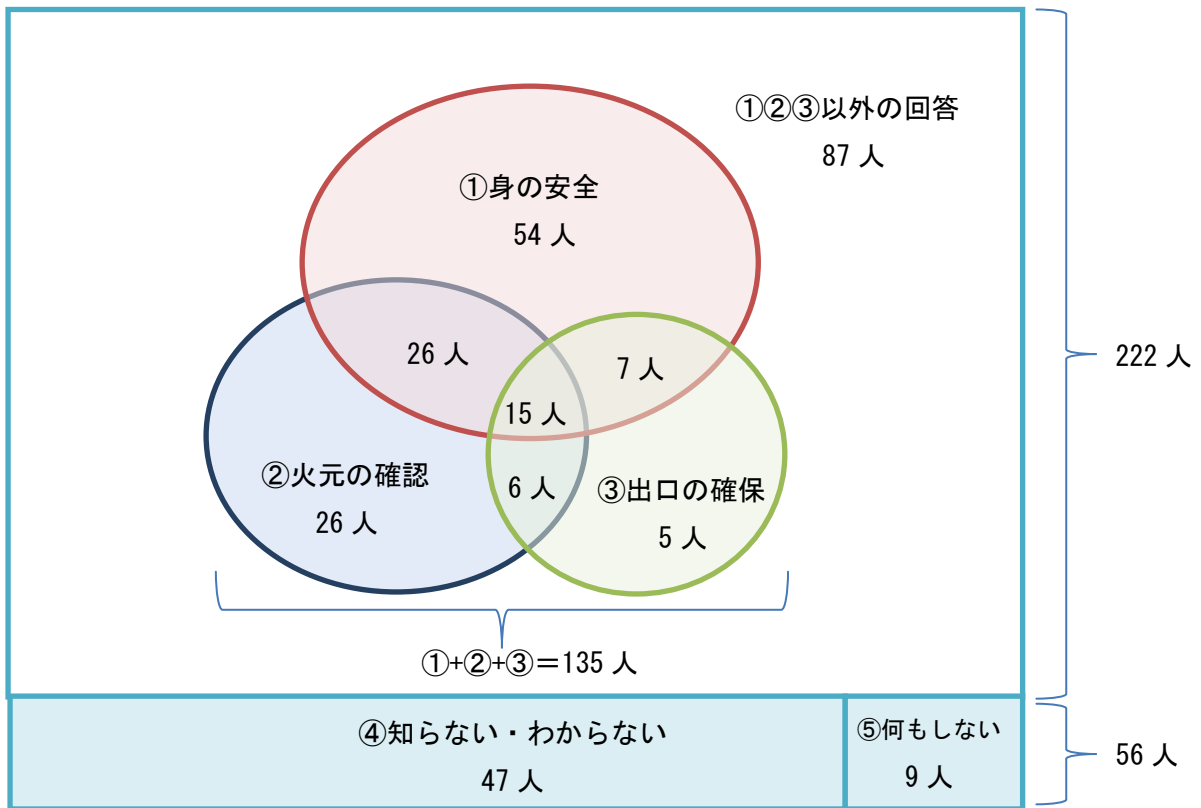
①「身の安全を確保する」、②「火元を確認する」、③「出口の確保」をすべて回答できたのは、社会人で11人(4.0%)、留学生15人(8.0%)、いずれか一つでも回答できた人も、社会人で135人(48.6%)、留学生で105人(56.1%)に過ぎなかった。問題とするべきは「知らない・わからない」「何もしない」という回答である。これらは社会人では56人(20.1%)、留学生では23人(12.3%)にも上り、こうした「避難行動が全くとれない」層を極力早急に減らすことが重要な課題である。

「①②③以外の行動」である「家から出て外に逃げる」は最も多く、社会人では101(36.3%)、留学生では84(44.9%)あった。家屋の倒壊などの不安のため、とにかく外に出るといった行動を取る人が多いと考えられるが、むやみに外に飛び出す危険性、安全な避難経路の選び方も合わせて教えておかなければならない。また、社会人にも留学生にも「そのまま留まる」「待つ」「助けを求める」「落ち着く」「様子を見る」「考える」「指示を待つ」といった回答も多数あり、災害時には何より「自助」が第一であることを周知しておく必要がある。また、地震が起ころうしてから「パンフレットを読む」「持って逃げるものを集める」という回答もあった。

また、「祈る」という回答も社会人には11件、留学生には1件あった。宗教を心のよりどころとしている国は多いが、避難所ではこうした外国人住民も生活することを前提に、異文化への理解や配慮が行え

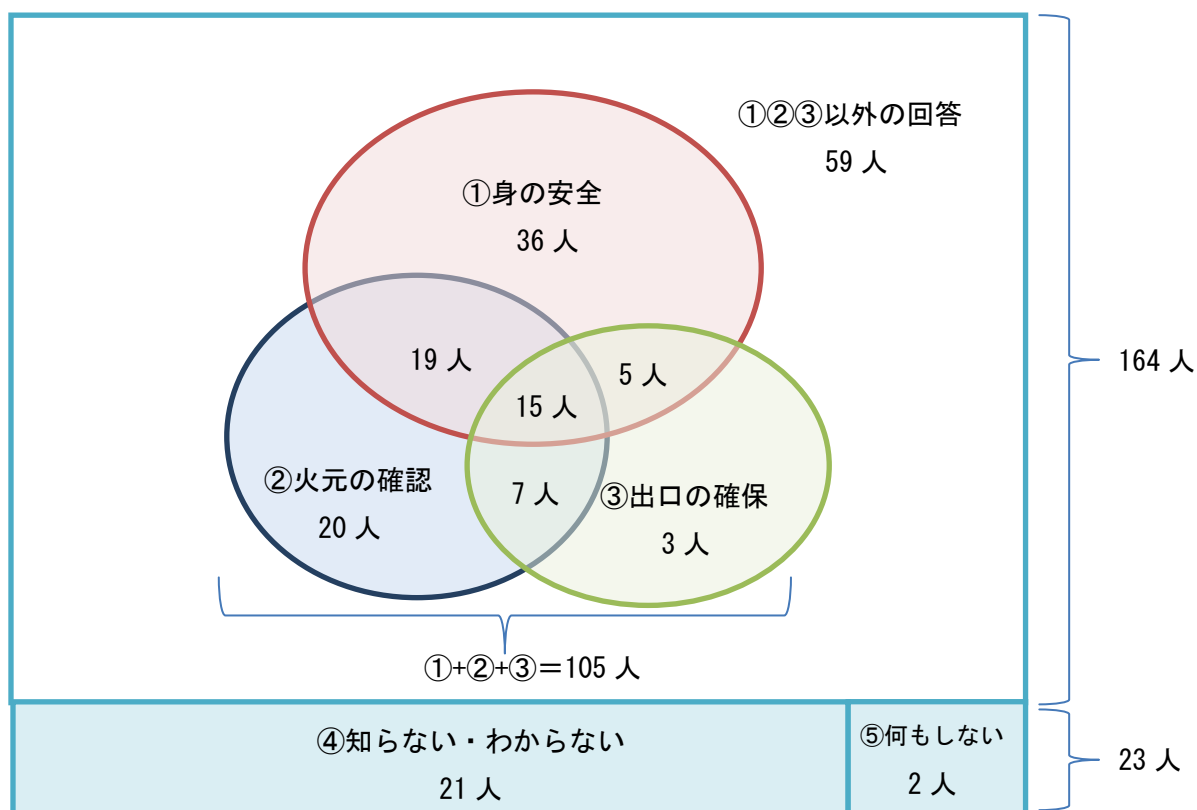
る運営訓練も必要である。

(図1) (Q1-8) 災害時の行動について (社会人 回答者数 278人 無回答 24人)



- ①「身の安全を確保する」に類する回答した人 98人 (頭を守る、机の下に入る、ガラス窓から離れるなど)
 - ②「火元の確認」に類する回答した人 69人 (ガスを消す、火を消す、電気・電源を消すなど)
 - ③「出口の確保」に類する回答した人 29人 (玄関を開けておく、部屋のドアを開ける、窓を開けるなど)
- 3つすべて回答できた人 11人、2つ回答できた人 39人、1つだけ回答できた人 85人
- いずれか1つ以上回答できた人 135人
- ④知らない・わからない 47人
 - ⑤何もしない 9人

(図2) (Q1-8) 災害時の行動について (留学生 回答者数 187人 無回答 17人)



- ①「身の安全を確保する」に類する回答した人 75人 (頭を守る、机の下に入る、ガラス窓から離れるなど)
- ②「火元の確認」に類する回答した人 61人 (ガスを消す、火を消す、電気・電源を消すなど)
- ③「出口の確保」に類する回答した人 30人 (玄関を開けておく、部屋のドアを開ける、窓を開けるなど)
- 3つすべて回答できた人 15人、2つ回答できた人 31人、1つだけ回答できた人 59人
- いずれか1つ以上回答できた人 105人
- ④知らない・わからない 21人
- ⑤何もしない 2人

6. 避難所以外の避難場所

大阪市における世論調査^{*3}によれば、「最寄りの収容避難場所を知っている」と答えた人は76.9%、また、西宮市民意識調査^{*4}によれば、「自宅付近の指定避難所について知っている」と答えた人は63.9%、三重県防災に関する県民意識調査報告書^{*5}では、「自宅付近の避難場所や避難所がどこにあるか知っている」と答えた人は87%と、日本人の避難所の認知度は高い。しかし(Q1-9、10)の回答によると、「避難所を知っている」と答えたのは社会人で42.1%、留学生で48.0%、さらに「具体的にどこにあるか知っている」と答えたのは、社会人で全体の22.5%、留学生では27.5%という結果であった。国立教育政策研究所の報道発表^{*6}によると、平成24年現在、避難場所に指定されている学校は全国の公立学校の90%の32,333校であるとのことだが、外国人住民にとって、中でも家族に小中学生の子供がいない世帯や地域との交流が少ない世帯にとって、地域の公立学校に行く機会はほとんどないともいえる。特に近年では公立学校もセキュリティの強化により、関係者以外は簡単に入れないというのが実情である。できれば、避

難訓練や防災講習会、そしてそれ以外にも地域の指定避難所を活用する頻度を増やせば、外国人住民も訪れる機会が増え、認知度も上がるのではないだろうか。

(Q1-11)では災害時に具体的に避難すると思われる場所を記述式で回答を求めたが、社会人では全239回答のうち72回答30.1%が指定避難所を挙げていたものの、「近隣の広いところや施設」という回答も次に多く、27回答あった。この「近隣の広いところや施設」の詳細は、おおよそ下記の(A)(B)(C)の3つに分けることができ、それぞれに問題が指摘できる。

(A) 京大病院、鴨川、左京区植物館、京都府立植物園、京都御所、二条城、京都アクアリーナ
これらは指定避難所ではなく、病院施設や広域避難場所として指定されている場所である。広域避難場所は大地震の際に発生する大火災から逃れるための避難場所で、大火など緊急の場合を除いては、避難民が殺到すれば本来の活動の妨げになる可能性もある。外国人住民にも、収容避難場所と広域避難場所、そして自治会・町内会で安否確認を行う一時避難場所など、それぞれの名称や役割の違いなどを周知しておく必要がある。

(B) 安全な地域、安全な場所、公園、災害のない所、広場(空地)、広場、グラウンド、強いお寺、神社、学校、公共の場所、高台
これらは具体的な場所や施設を想定できていない回答といえる。災害という非常時に具体的な避難場所や施設を思いつかないというのは非常に危険である。

(C) 家の外、家の外の田圃、家の近くの公園、近くのサッカー場、近くにある学校の広場
これらは具体的に自宅の近隣の特定の場所を想定した回答ではあるが、とりあえず思いついた場所にすぎず、一時避難場所でも収容避難場所でもない。

その他「同胞のいるところ」、「日本人の個人宅」、「所属している会社や学校」など、日常から交流のある「人」を頼った回答も多くあった。

一方、留学生の回答では、「教会」をあげる人がもっとも多かった。これは教会を通じた調査回答が多かったために突出した一面もあるが、実際に教会をコミュニティにしている外国人住民や留学生も多い。東日本大震災時には教会が積極的に外国人住民の避難を受け入れた事例もあり、神戸市地域防災計画などでは、外国人学校、教会、外国人コミュニティ施設に避難するケースを想定した対応策に取り組み始めている*7。

「教会」に次いで多かったのが「大学」である。広いグラウンドがあり、頑丈な建物が建ち、言葉が通じる仲間がいる大学に留学生が避難しようとするのは当然のことであろう。(実際に東日本大震災時には多くの学生が避難したものの、避難所としての機能が果たせなかったことが報じられている*8。)そして3番目に多かったのは「近隣の広いところや施設」である。これは社会人と同様に避難所として適切ではない場所、不確定な場所が多く含まれている。

以上のことから、外国人住民、特に留学生の場合、たとえそこが指定された避難所でなくとも、なじみがあり、状況がよくわかっている場所や、言葉が通じる仲間やサポートしてくれる人がいる場所など、安心材料が多い「施設」や「人」「コミュニティ」を頼って避難する可能性は極めて高い。そしてその可能性が高いのであれば、こうした場所も避難所として具体的な防災対策、避難対策を考える必要があるのではないだろうか。

7. 「日本語で十分なコミュニケーションが取れない人」への情報提供

(Q4-1) は、日本語能力についての回答である。この回答で注目したいのは「日本語で十分なコミュニケーションが取れない人」の割合である。①話す力、②聞く力、③読む力のそれぞれ4択のうち、下位2つの回答者を「日本語で十分なコミュニケーションが取れない人」と定義した場合、表6のような結果が得られた。①話す力、②聞く力、③読む力のすべてにおいて「日本語で十分なコミュニケーションが取れない人」は社会人 17.9%、留学生 7.8%、いずれかに該当する人は社会人 51.7%、留学生 24.5%にも上ることがわかった。

(表6) 「日本語で十分なコミュニケーションが取れない」人の割合

	社会人	留学生
①話す力		
「決まったあいさつ単語なら言うことができる」	32.5%	16.2%
「ほとんど話せない」	7.3%	3.9%
合計	<u>39.8%</u>	<u>20.1%</u>
②聞く力		
「簡単な単語は聞き取れる」	29.1%	11.8%
「ほとんど聞き取れない」	6.3%	5.4%
合計	<u>35.3%</u>	<u>17.2%</u>
③読む力		
「ひらがなは読める」	24.2%	6.4%
「ほとんど読めない」	6.3%	4.9%
合計	<u>30.5%</u>	<u>11.3%</u>

市町村の防災計画では、災害弱者・災害時要援護者として外国人を位置づけているが、災害時に正確な情報を提供できれば、外国人住民はその情報をもとに自ら考え、判断し、避難行動が取れるため、災害弱者・災害時要援護者というカテゴリーから外すことができる。そこでより多くの外国人住民に正確な情報を提供するための方法として多言語化とともに注目されているのが弘前大学人文学部社会言語学研究室による「やさしい日本語」*9である。この「やさしい日本語」は日本語能力試験 3 級から 4 級のレベルの語彙と文法で作られているため、こうした「日本語で十分なコミュニケーションが取れない人」たちにも情報が伝わりやすい。また、研究室のホームページに掲載されている『災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』には、発災から 72 時間までのすべての発信情報が放送案文、ポスターなどで網羅されており、外国人住民に情報を提供する有効なツールとして全国の自治体でも取り組み始めているところが多い。今後、京都でも「やさしい日本語」を活用した情報提供の取組が必要である。

8. 防災訓練や防災講習会の効果

ここでは、防災訓練や講習会の効果を図るために、「防災訓練や講習会への参加の有無」と「防災知識」について調べてみた。まず社会人と留学生のそれぞれについて、防災訓練や講習会に (A)「参加したことがあるグループ」と (B)「参加したことがないグループ」に分け、表7のようにクロス集計をおこなった。表7の次の点に注目したい。

(Q1-3) 地震対策

社会人、留学生ともに「参加したことがあるグループ」のほうが地震対策をしているという回答が多いが、留学生においては4でも述べたように具体的な地震対策にはつながっていない。

(Q1-8) 災害時の行動

社会人では「参加したことがあるグループ」のほうが身を守る行動を回答できている。「参加したことがないグループ」では災害が起こった時の行動について「わからない・何もしない」と回答している人が多い。また、留学生では「参加したことがあるグループ」のほうが災害時の行動を回答できている一方で、「わからない・何もしない」と回答している人も多い。

(Q1-10) 具体的な避難所の認知度

社会人、留学生ともに、「参加したことがあるグループ」のほうが具体的な避難所を知っている。

(Q3-1) 地域との交流度合い

社会人では、「参加したことがあるグループ」のほうが平均点が高く、留学生では「参加したことと地域との交流度合いに関係性が見られない。

(Q3-2) 交流活動

社会人では、「参加したことがあるグループ」のほうが総じて平均点が高く、「出身国が同じ人々が行う活動」や「日本人も外国人も一緒に行う活動」「外国籍の人々が行う活動」に参加している人が多い。また、留学生では「参加したことがあるグループ」のほうが「出身国が同じ人々が行う活動」や「教会行事など宗教関係の活動」により多く参加している。

(Q5-8) 日本人家族の有無

社会人においては、「参加したことがあるグループ」には家族に日本人がいない人が多い。

(表7) 防災訓練や講習会への参加を軸としたクロス集計データ

防災訓練や講習会に参加したことがありますか。	社会人 302 人 回答者数 288 人、無回答 14 人		留学生 204 人 回答者数 202 人、無回答 2 人	
	(A) はい	(B) いいえ	(A) はい	(B) いいえ
該当者数	30% 85 人	70% 203 人	42% 84 人	58% 118 人
(Q1-3) 地震対策をしている人	60%	46%	43%	17%
(Q1-8) 「もし、家にいるとき大きな地震が起こったら、あなたはまず何をしますか。3つ答えてください」の回答				
「身の安全を確保する」「火元の確認」「出口の確保」のうち2つ以上を回答	20%	15%	26%	12%
「わからない・何もしない」だけを回答	15%	21%	10%	7%
(Q1-10) 避難所を具体的に知っている	35%	16%	36%	12%

(Q3-1) 地域との交流度合い (平均点)				
あいさつをする	3.4	3.2	2.8	2.9
家の外で立ち話をする	2.1	2.0	1.7	1.7
困りごとの相談をする	1.9	1.9	1.6	1.5
町内会や自治会の活動に参加する	1.8	1.5	1.3	1.3
地域での趣味の活動に参加する	2.0	1.5	1.4	1.5
(Q3-2) 交流活動の参加度合い (平均点)				
出身国が同じ人々が行う活動	2.9	2.4	3.1	3.0
外国籍の人々が行う活動	2.5	2.3	2.0	2.2
日本人も外国人も一緒に行う活動	2.7	2.5	2.2	2.3
地域の町内会や自治会の活動	1.7	1.5	1.4	1.4
PTAなど子どもの学校関係の活動	1.5	1.6	-	-
ボランティア活動	1.9	1.6	1.7	1.4
趣味やスポーツなどのサークル活動	1.8	1.8	1.8	1.7
教会行事など宗教関係の活動	1.8	1.8	2.6	2.0
(Q5-8) 家族に日本人がいる	32%	35%	-	-

※ (Q3-1, 2) 「よくする」=4、「ときどきする」=3、「あまりしない」=2、「まったくしない」=1として平均点を算出した。
 ※留学生においては、(Q3-2)「PTAなど子どもの学校関係の活動」および(Q5-8)「家族に日本人がいる」の項目は削除した。

以上の分析から、防災に関する訓練や講習会が防災知識を高めるのに役立っていること、そして、社会人においては、「出身国が同じ人どうしの活動」や「教会行事など宗教関係の活動」のコミュニティのつながりが強く、このコミュニティの強さを生かした防災訓練、講習会や広報活動を行えば、より効果が得られるのではないだろうか。ただし、留学生においては、防災訓練や講習会が必ずしも知識や行動につながっていないことが明らかであり、これについては、引き続きその内容について精査する必要がある。

9. 防災訓練、防災講習会の参加率を上げるために

どんなに内容の良い防災訓練や講習会であっても、参加してもらえなければ役には立たない。大阪市内における世論調査 *10によると、訓練などの自主防災活動に参加したことがある人はわずか 12.0%、また浜松市のアンケート調査 *11でも平成 23 年度に防災訓練に参加したのは 30.1%であった。そして参加しない理由については、大阪市、浜松市ともに「知らなかった」、「忙しかった」、「参加する方法がわからなかった」が上位を占めていた。

本調査でも同様の質問を（Q1-5、1-6）で行ったが、参加率は社会人 29.5%、留学生 41.6%と、日本人と比較しても取り立てて低いわけではない。また、参加しなかった理由も日本人と同様で、「知らない」「参加の仕方がわからない」「時間がない」が上位であった。しかし、本調査の自由記入には、防災訓練や講習会の開催を望む声も多く寄せられており、参加したくてもなかなかその機会を得られない外国人住民もたくさんいることがわかった。そこでどのようにすればより効果的なものになるか、どうすれば参加しやすくなるのかを、これまでの分析を踏まえてまとめておきたい。

様々な災害、特に大きな地震の発災時には、身の安全を確保し、無事に避難するために、防災グッズの準備をするなど、事前の備えは欠かせない。特に地震については、来日して初めて地震を体験する外国人もいるため、阪神淡路大震災や東日本大震災の画像や映像などを見せて、「どんなことが起こるのか」「どのような状態になるのか」がわかれば準備の必要性が理解しやすい。また、地図を見る習慣のない国もあるため、ハザードマップで避難所や安全な避難経路を確認する際にも、職場や学校などの行動範囲に基づいた確認が重要である。防災グッズなども、できるだけ実物に触れ、試し、名前や正しい使い方、値段や購入方法まで伝えることで実際の準備につながりやすくなる。つまり、防災訓練や講習会は“行動につながることを到達目標に”するべきである。

そして、自治会単位、企業単位、学校やコミュニティなど、“小さな単位”での防災訓練や講習会であれば、参加率をあげることができるのではないだろうか。たとえば「時間がない」という課題には、開催の曜日や時間帯を変える、異なるコミュニティで開催されるものであっても参加できるようにするなど、少しでも参加する機会を増やすことができる。「参加しても日本語がわからない」という問題についても、そのコミュニティの中にいる日本語上級者に通訳をお願いしたり、「やさしい日本語」を活用したりすることで対応がしやすく、「防災訓練や講習会が行われていることを知らない」という問題も、そのコミュニティの活動の中で実施すれば広報もしやすく、参加率を高めることができる。

そして最後に、防災訓練や講習会はできるだけ“外国人住民+地域の日本人”で行われることが望ましい。本調査の（Q2-1~5）の回答から、社会人、留学生ともにインターネットや Facebook の利用率は高く、普段の生活の情報源が「友人・知人」が中心であること、特に留学生は、表 8 からもわかるように「出身国の同じ人々との交流」が中心であることなど、情報源の少なさを表すデータが多く見られた。しかし、東日本大震災であったように、インターネットや携帯電話、スマートフォンなど情報ツールの一切が災害時には使えなくなるリスクも高く *12、まったく誰にも連絡がとれない不安からデマや流言が拡散しやすくなるという研究データもある *13。このような状況下に正確な情報源として重要になるのが、そばにいる日本人、地域の人たちの存在である。日常からコミュニケーションが取れている地域では、災害時も問題が発生しにくいといわれている。外国人住民や留学生にとって、日常から自治会や町内会とのコミュニケーションを図っておくことは非常に重要である。防災講習会や講座を行う際に、少しでも多くの日本人が参加し、グループワークを取り入れるなどの工夫で、コミュニケーションを図ることは可能である。た

例えば、現在京都市など自治体で進められている指定避難所における運営マニュアルの作成や避難所運営訓練においても、その地域の外国人住民の参加を促し、巻き込んでいくことで、防災知識の格差や文化や宗教の違いなど、日本人も様々な「気づき」が得られるに違いない。ぜひ「外国人住民+地域の日本人」での取り組みで日常からのコミュニケーションを図っていただきたい。

(表 8) (Q3-2) 留学生の交流活動 「よくする」+「ときどきする」を社会人と比較

	留学生	社会人
出身国が同じ人々が行う活動	75.1%	54.8%
教会行事など宗教関係の活動	41.5%	26.6%
日本人も外国人も一緒に行う活動	40.2%	57.1%
外国籍の人々が行う活動	29.7%	46.1%
趣味やスポーツなどのサークル活動	17.3%	24.2%
ボランティア活動	10.7%	16.2%
地域の町内会や自治会の活動	5.6%	15.5%

註

- * 1 明治安田生命 震災に関するアンケート調査 2011年8月29日
<http://www.meijiyasuda.co.jp/profile/news/release/2011/pdf/20110829.pdf>
- * 2 京都市 平成23年度 第1回 市政総合アンケート報告書 「災害に強い安心・安全なまちづくり」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000013339.html>
- * 3 大阪市 平成23年度 世論調査「大阪市における震災対策」の調査結果
<http://www.city.osaka.lg.jp/shiseikaikakushitsu/page/0000147503.html>
- * 4 西宮市 平成23年度 西宮市民意識調査
<http://www.nishi.or.jp/contents/00019084000200007.html>
- * 5 三重県 平成24年度 防災に関する県民意識調査報告書
<http://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/2012030533.htm>
- * 6 国立教育政策研究所 平成24年度 学校施設の防災機能に関する実態調査結果について
<http://www.nier.go.jp/shisetsu/pdf/bousaikinou2012.pdf>
- * 7 神戸市地域防災計画 防災対応マニュアル <http://www.city.kobe.lg.jp/safety/prevention/plan/manual/>
- * 8 河北新報社 Web版特集 2011年09月04日 http://www.kahoku.co.jp/spe/spe_sys1071/20110905_01.htm
- * 9 弘前大学人文学部社会言語学研究室 <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/Default.htm>
- * 10 大阪市 平成23年度 世論調査「大阪市における震災対策」の調査結果
<http://www.city.osaka.lg.jp/shiseikaikakushitsu/page/0000147507.html>
- * 11 浜松市 平成24年度 市民アンケート調査結果報告書
http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/koho2/politics/simin_tyosa/index.html
- * 12 株式会社サーベイリサーチセンターの「震災後の通信状況に関する調査」
<http://www.surece.co.jp/src/research/mobile/>
東日本大震災時の通信状況について、「東日本大震災後1日以内に、震災前と同様の携帯電話の利用が可能となったのは約15%」、「東日本大震災後1週間以内に、震災前と同様の携帯電話の利用が可能となったのは約75%」という調査結果を発表している。
- * 13 東京海上日動リスクコンサルティング株式会社「災害時のデマと流言」
http://www.tokiorisk.co.jp/risk_info/up_file/201106071.pdf
「災害時には、情報が寸断されやすい一方で、情報に対する需要は平時と比較すると爆発的に高まる。そんな中、不足した情報を補う口コミやデマが発生し、情報への需要・供給のギャップを埋めようとする。また災害によって心理的に不安な状況におかれた人々は、更なる悪い状況を自ら予想（津波が来る、大きな地震が来る、等）し、親切心から周囲に緊急に対応すべきと警告する。そして、情報を渴望していた人々の中に、急速な勢いで、デマとして拡散していくことになるのである。
このように、災害はデマが伝播しやすい環境を作りやすいと言われていた。加えて、昨今の携帯ツールとソーシャルメディアの発展により、口コミの情報を簡単に、迅速に、また広範囲に、発信・入手できる環境が整ったことで情報はより拡散しやすくなった。災害時のデマや流言のリスクは、過去と比べ更に増幅している。」

今後の防災教育の強化にむけて

「やさしい日本語」有志の会

東海、東南海、南海大地震の危険性が叫ばれている中、「やさしい日本語」有志の会でも、2008年の発足以来、地域の日本語教室を通じた外国人住民への防災教育や、災害時に外国人住民に情報を伝えるための「やさしい日本語」のワークショップなどを行ってきました。しかし2011年の東日本大震災を契機に、日本人と同様に、外国人住民も災害への危機意識は高まったのではないのでしょうか。ところが、外国人住民といっても、属性は様々です。どういった属性の人の危機意識が低く、災害や防災についてどこまで知っており、具体的にどこまで準備しているのでしょうか。外国人住民を十把ひとからげに「災害時要援護者・要支援者」として対策を考えるのではなく、外国人住民の防災意識や疑問や要望を踏まえた上で災害の対応策を考えるべきではないのでしょうか。

こうした疑問を発端に、「やさしい日本語」有志の会は（公財）京都府国際センターとともに京都府外国人住民の防災意識調査を実施しました。本報告書は、この調査結果を日本人を対象とした類似の調査結果と比較しながら、注目すべきと思われる課題部分をまとめ、提言を行っています。もちろん、この調査は地域日本語教室の方を中心に行っているため、京都府内のすべての外国人住民、留学生の防災意識とは必ずしも一致するとはいえませんが、予想以上にたくさんの外国人住民の方々からご回答をいただけたため、今後の防災教育の一助になると考えています。

今回の調査結果から明確に読み取れるように、外国人住民は防災訓練や防災講座を望んでいます。それは様々な災害への不安の裏返しであり、情報の不足や知識を得る機会がないことの表れでもあるのです。今回の分析では、様々な環境にある外国人住民に回答をお願いしましたが、中でも「母国にもともと地震が少ない」「来日して間もない」「日本語でのコミュニケーションがあまりできない」「地域や他者との交流があまりない」「家族に日本人がいない」人たちに防災教育の必要があること、そしてその内容は、地震時の初期行動や具体的な避難場所など、「自分の命を自分で守る」ための知識や「備え」の重要性であることがわかりました。それから、可能な限り、外国人住民をサポートする日本人や地域住民の方もいっしょに、“小さなコミュニティ単位”での防災訓練や防災講座を実施することが、災害時にも安心で安全な地域を作りだせるといえます。

今後は今回の調査結果や分析をもとに、ボランティア日本語教室や（公財）京都府国際センター、専門家の方々や行政などのご意見もいただきながら、少しでも役立つ防災教育について考え、活動を行っていく予定です。ぜひ、多くの皆さんからのご意見も伺いたいと考えておりますので、ご協力をよろしく願います。

最後となりましたが、今回の意識調査実施においては、京都大学防災研究所の矢守克也教授、李フシン大学院生に多くのアドバイスをいただきました。また、調査の実施には、京都にほんご Rings の会員の皆様を初め、多方面の方々にご協力とご尽力をいただきました。ここに深く御礼を申し上げます。

資料編：アンケート調査票

防災についてのアンケート調査

公益財団法人 京都府国際センター
「やさしい日本語」有志の会

【はじめに】

このアンケート調査は、防災について、京都府に住んでいる外国籍の皆様のご意見をお聞きし、今後の施策に生かすために実施します。

お名前を書きいただく必要はありません。

回答は統計的に処理し、回答内容は調査の目的以外には一切使用しませんので、どうぞご安心ください。

ご協力をよろしくお願いいたします。

【問い合わせ先】
(公財)京都府国際センター 事業課
Tel: 075-342-5000 Fax: 075-342-5050
E-mail: main@kpic.or.jp

【アンケート】

1. 近い将来、近畿地方でも大きな地震が起こるといわれています。地震や台風などの災害についてのあなたのお考えとその対策についてお聞かせください。

1-1 あなたはご自身が住んでいる地域で、下記の災害に対してどのくらい不安を感じていますか。それぞれについてあてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

	とても不安	やや不安	あまり不安ではない	まったく不安ではない
地震	4	3	2	1
台風	4	3	2	1
集中豪雨	4	3	2	1
落雷	4	3	2	1
竜巻	4	3	2	1
津波	4	3	2	1
大雪	4	3	2	1

1-2 災害が発生した時に心配なことは何ですか。それぞれについてあてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

	とても不安	やや不安	あまり不安ではない	まったく不安ではない
家族の安否	4	3	2	1
水道、電気、ガスが止まること	4	3	2	1
食料品の確保	4	3	2	1
通信手段が遮断 連絡が取れない	4	3	2	1
家屋の倒壊損傷	4	3	2	1
火災の発生	4	3	2	1
生活用品の確保	4	3	2	1
家具の倒壊損傷	4	3	2	1
災害情報の入手	4	3	2	1
避難場所の確保	4	3	2	1
治安の悪化	4	3	2	1
交通機関のマヒ	4	3	2	1
帰宅困難になる	4	3	2	1
液状化現象※の発生	4	3	2	1
その他()	4	3	2	1

※液状化現象:地震のとき、砂を多く含む土地が液体のようになり、建物が傾いたり水道管が浮き上がったたりする現象

1-3 あなたは地震などの災害に対して、何か対策をしていますか。
どちらかに○をつけてください。

1. している	2. していない →Q1-5へ
---------	-----------------

1-4 あなたが現在しているものすべてに○をつけてください。

1	自宅近くの避難所や避難ルートを調べる
2	食糧・飲料水などの「非常持出品」を準備する
3	貴重品などをすぐ持ち出せるように準備する
4	消火器や水バケツを準備する
5	家具の固定やガラス飛散対策など、家の中の安全対策をする
6	家族で話し合い、連絡方法や集合場所を決めておく
7	地域の住民と日ごろから仲良くする
8	自宅の耐震診断や、改修を行う
9	防災訓練、防火・防災行事に積極的に参加する
10	その他（具体的に:)

1-5 職場や学校、あなたの住んでいる地域では、防災訓練や防災講習会を行っています。
あなたはこうした訓練や講習会に参加したことがありますか。どちらかに○をつけてください。

1. ある →Q1-7へ	2. ない
--------------	-------

1-6 参加しなかったのは、なぜですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1	参加の仕方がわからない
2	時間がない
3	参加しても日本語がわからない
4	防災訓練や防災講習会が行われていることを知らない
5	関心がない
6	その他（具体的に： _____ ）

1-7 あなたが防災訓練や講習会に参加するなら、どんな内容を取り上げてほしいですか。取り上げてほしい内容すべてに○をつけてください。

1	母国との連絡方法
2	災害時の正しい行動
3	避難所のこと
4	外出先での避難の方法
5	災害時、自治体が行う外国人への対策
6	地震発生の予測
7	大地震の揺れの疑似体験
8	地震の発生のメカニズム
9	過去の大災害の事例や教訓など
10	マグニチュード、震度の定義
11	食料や水の備蓄
12	災害時に持ち出すもの
13	家具の転倒防止の方法
14	その他（具体的に： _____ ）

1-8 もし、家にいるとき大きな地震が起こったら、あなたはまず何をしますか。3つ答えてください。「わからない」時は「わからない」、「何もしない」ときは「何もしない」と書いてください。

1	
2	
3	

1-9 市町村は、災害発生時に住民が被害を受けたり、受ける恐れがある場合に避難すべき場所「避難所」を指定しています。あなたはこのことを知っていましたか。どちらかに○をつけてください。

1. 知っている	2. 知らない →Q1-11へ
----------	-----------------

1-10 あなたは災害時に自分が避難する指定避難所が具体的にどこにあるか知っていますか。どちらかに○をつけてください。

1. 知っている →Q1-12へ	2. 知らない
------------------	---------

1-11 あなたは災害時に避難が必要な時に、どこに避難しますか。できるだけ具体的に答えてください。（例：××交流会館、○○教会、日本人の知人の家）

--

1-12 災害時には携帯電話や固定電話でメッセージを残し、家族や友人に安否を知らせる「災害用伝言板」や「災害用伝言ダイヤル」があります。

①あなたは「災害用伝言板」や「災害用伝言ダイヤル」を知っていましたか。どちらかに○をつけてください。

1. 知っている	2. 知らない →Q1-13 へ
----------	------------------

②あなたは「災害用伝言板」や「災害用伝言ダイヤル」の使い方を知っていますか。どちらかに○をつけてください。

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

1-13 災害や防災について、ご要望、心配事、ご質問があればどのようなことでもご自由にお書きください。

2. 災害や防災に限らず、日常での情報入手方法についてお聞かせください。

2-1 あなたは生活に関する情報をどこから得ていますか。下記から3つ選んでください。

--	--	--

1	家族	2	町内会・自治会
3	友人・知人	4	国際交流協会・日本語教室
5	出身国が同じ人々のネットワーク	6	役所・役場など公的機関
7	学校・職場	8	メディア(TV、ラジオ、新聞など)
9	その他（具体的に: _____)		

2-2 あなたが普段利用するメディアは何ですか。下記から3つ選び、優先順位の高い順番で記入してください。

1位		2位		3位	
----	--	----	--	----	--

1	テレビ	2	本や雑誌
3	ラジオ	4	インターネット
5	新聞		
6	その他（具体的に: _____)		

2-3 あなたはインターネットを利用していますか。どちらかに○をつけてください。

1. はい	2. いいえ →Q3-1 へ
-------	----------------

2-4 インターネットを何で利用していますか。利用しているものすべてに○をつけてください。

1	パソコン	2	タブレット PC (iPad など)
3	携帯電話	4	その他(_____)

2-5 あなたは下記の交流サイトを利用していますか。利用しているものすべてに○をつけてください。

1	Facebook	2	Google+
3	Twitter	4	mixi
5	その他 ()		

3. 地域とのかかわりについてお聞かせください。

3-1 あなたはあなたの住んでいる地域の日本人と、どのくらい交流していますか。
それぞれについてあてはまるものを 1つ 選んで○をつけてください。

	よくする	ときどき する	あまり しない	まったく しない
あいさつをする	4	3	2	1
家の外で立ち話をする	4	3	2	1
困りごとの相談をする	4	3	2	1
町内会や自治会の活動に参加する	4	3	2	1
地域での趣味の活動に参加する	4	3	2	1

3-2 あなたは普段、趣味やスポーツ、情報交換や交流活動にどのくらい参加していますか。
それぞれについてあてはまるものを 1つ 選んで○をつけてください。

	よくする	ときどき する	あまり しない	まったく しない
出身国が同じ人々が行う活動	4	3	2	1
外国籍の人々が行う活動	4	3	2	1
日本人も外国人も一緒に行う活動	4	3	2	1
地域の町内会や自治会の活動	4	3	2	1
PTAなど子どもの学校関係の活動	4	3	2	1
ボランティア活動	4	3	2	1
趣味やスポーツなどのサークル活動	4	3	2	1
教会行事など宗教関係の活動	4	3	2	1
その他 (具体的に:)	4	3	2	1

4. 使っている言葉についてお聞かせください。

4-1 あなたの日本語能力についてお尋ねします。次の①から③についてあてはまるものを 1つ 選んで○をつけてください。

①話す力

1	自分の意見を問題なく話せる	2	自分の言いたいことがだいたい話せる
3	決まったあいさつ、単語なら言うことができる	4	ほとんど話せない。

②聞く力

1	テレビのニュースを聞き取れる	2	相手がゆっくり話せば聞きとれる
3	簡単な単語は聞き取れる	4	ほとんど聞きとれない

③読む力

1	新聞や雑誌が読める	2	簡単な漢字まじりの言葉が読める
3	ひらがなは読める	4	ほとんど読めない

4-2 あなたは今、日本語を学んでいますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1	学んでいない →Q4-3 へ	2	日本語学校で学んでいる
3	大学などの日本語クラスで学んでいる	4	地域の日本語教室で学んでいる
5	プライベートで学んでいる		
6	その他（具体的に: _____）		

4-3 4-2 で「日本語を学んでいない」と答えた方にお尋ねします。
あなたが日本語を学ばない理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1	忙しくて勉強する時間がないから	2	どこに日本語教室や日本語学校があるかわからないから
3	勉強するお金がないから	4	曜日や時間、レベルが合わないから
5	家族や友人などが通訳してくれるから	6	母国の言葉だけで生活できるから
7	十分、日本語ができるから		
8	その他（具体的に: _____）		

4-4 あなたは普段、下記のどの言葉を使いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1	日本語	2	英語
3	中国語	4	韓国・朝鮮語
5	スペイン語	6	ポルトガル語
7	フィリピン語		
8	その他（いくつでも: _____）		

5. あなたご自身についてお聞かせください。

次の①から⑧の質問について、あてはまるものを 1つ選んで○をつけてください。

<p>① 性別</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">1</td> <td style="width: 25%;">男</td> <td style="width: 25%;">2</td> <td style="width: 25%;">女</td> </tr> </table> <p>② 年齢</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%;">1</td><td>20歳～29歳</td></tr> <tr><td>2</td><td>30歳～39歳</td></tr> <tr><td>3</td><td>40歳～49歳</td></tr> <tr><td>4</td><td>50歳～59歳</td></tr> <tr><td>5</td><td>60歳～69歳</td></tr> <tr><td>6</td><td>70歳～79歳</td></tr> <tr><td>7</td><td>80歳以上</td></tr> </table> <p>③ 国籍・出身地域</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%;">1</td><td>韓国・朝鮮</td></tr> <tr><td>2</td><td>中国</td></tr> <tr><td>3</td><td>フィリピン</td></tr> <tr><td>4</td><td>米国</td></tr> <tr><td>5</td><td>ブラジル</td></tr> <tr><td>6</td><td>英国</td></tr> <tr><td>7</td><td>インドネシア</td></tr> <tr><td>8</td><td>台湾</td></tr> <tr><td>9</td><td>ベトナム</td></tr> <tr><td>10</td><td>タイ</td></tr> <tr><td>11</td><td>その他()</td></tr> </table> <p>④ お住まいの市町村はどこですか。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	1	男	2	女	1	20歳～29歳	2	30歳～39歳	3	40歳～49歳	4	50歳～59歳	5	60歳～69歳	6	70歳～79歳	7	80歳以上	1	韓国・朝鮮	2	中国	3	フィリピン	4	米国	5	ブラジル	6	英国	7	インドネシア	8	台湾	9	ベトナム	10	タイ	11	その他()	<p>⑤ あなたの在留資格を下記から選んでください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%;">1</td><td>留学</td></tr> <tr><td>2</td><td>家族滞在</td></tr> <tr><td>3</td><td>技能実習</td></tr> <tr><td>4</td><td>人文知識・国際業務</td></tr> <tr><td>5</td><td>教授</td></tr> <tr><td>6</td><td>技能</td></tr> <tr><td>7</td><td>特別永住者</td></tr> <tr><td>8</td><td>永住者</td></tr> <tr><td>9</td><td>日本人の配偶者等</td></tr> <tr><td>10</td><td>定住者</td></tr> <tr><td>11</td><td>その他()</td></tr> </table> <p>⑥ あなたはこれまでどのくらい日本に住んでいますか。 これまでの在住期間の合計でお答えください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%;">1</td><td>1年未満</td></tr> <tr><td>2</td><td>1年から3年未満</td></tr> <tr><td>3</td><td>3年から5年未満</td></tr> <tr><td>4</td><td>5年から10年未満</td></tr> <tr><td>5</td><td>10年以上</td></tr> </table> <p>⑦ あなたは今後日本にどのくらい住む予定ですか。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%;">1</td><td>1年未満</td></tr> <tr><td>2</td><td>1年から5年未満</td></tr> <tr><td>3</td><td>5年以上</td></tr> <tr><td>4</td><td>わからない</td></tr> </table> <p>⑧ あなたの家族に日本人はいますか。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%;">1</td><td>はい</td></tr> <tr><td>2</td><td>いいえ</td></tr> </table>	1	留学	2	家族滞在	3	技能実習	4	人文知識・国際業務	5	教授	6	技能	7	特別永住者	8	永住者	9	日本人の配偶者等	10	定住者	11	その他()	1	1年未満	2	1年から3年未満	3	3年から5年未満	4	5年から10年未満	5	10年以上	1	1年未満	2	1年から5年未満	3	5年以上	4	わからない	1	はい	2	いいえ
1	男	2	女																																																																																		
1	20歳～29歳																																																																																				
2	30歳～39歳																																																																																				
3	40歳～49歳																																																																																				
4	50歳～59歳																																																																																				
5	60歳～69歳																																																																																				
6	70歳～79歳																																																																																				
7	80歳以上																																																																																				
1	韓国・朝鮮																																																																																				
2	中国																																																																																				
3	フィリピン																																																																																				
4	米国																																																																																				
5	ブラジル																																																																																				
6	英国																																																																																				
7	インドネシア																																																																																				
8	台湾																																																																																				
9	ベトナム																																																																																				
10	タイ																																																																																				
11	その他()																																																																																				
1	留学																																																																																				
2	家族滞在																																																																																				
3	技能実習																																																																																				
4	人文知識・国際業務																																																																																				
5	教授																																																																																				
6	技能																																																																																				
7	特別永住者																																																																																				
8	永住者																																																																																				
9	日本人の配偶者等																																																																																				
10	定住者																																																																																				
11	その他()																																																																																				
1	1年未満																																																																																				
2	1年から3年未満																																																																																				
3	3年から5年未満																																																																																				
4	5年から10年未満																																																																																				
5	10年以上																																																																																				
1	1年未満																																																																																				
2	1年から5年未満																																																																																				
3	5年以上																																																																																				
4	わからない																																																																																				
1	はい																																																																																				
2	いいえ																																																																																				

■アンケートは以上で終わりです。ご協力いただき、ありがとうございました。

京都府外国人住民に向けた防災についてのアンケート調査報告書

平成 25 (2013) 年 10 月発行

公益財団法人 京都府国際センター

〒600-8216 京都市下京区烏丸通塩小路下ル 京都駅ビル 9 階

TEL: 075-342-5000 FAX: 075-342-5050

E-mail: main@kpic.or.jp